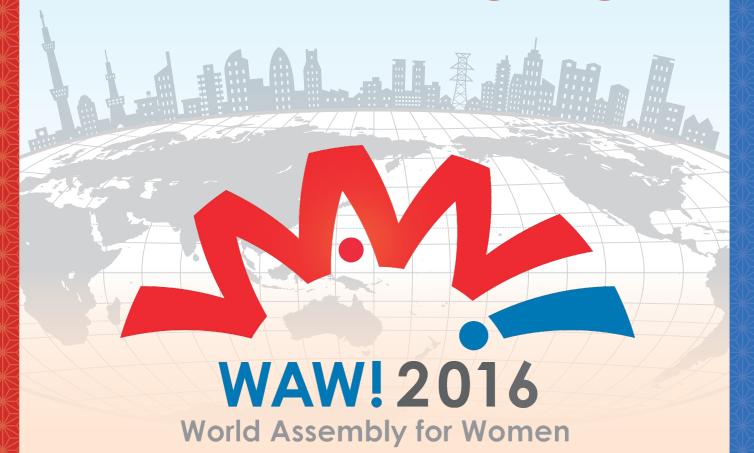
国際女性会議

World Assembly for Women

WAW!2016



プログラム

Program

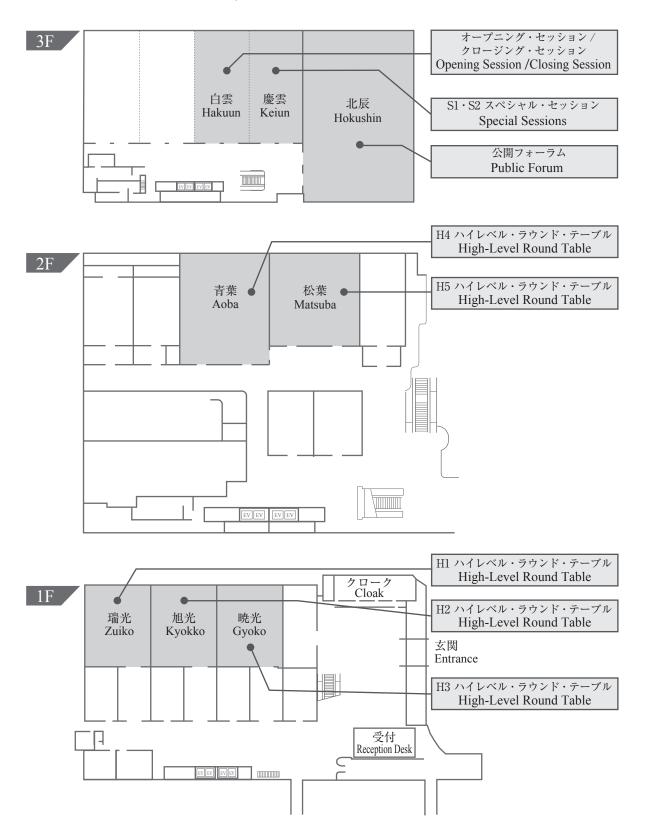
2016年12月13日~14日 December 13 - 14, 2016

グランドプリンスホテル新高輪

Grand Prince Hotel New Takanawa

会場案内/ Area Map

グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール Grand Prince Hotel New Takanawa, International Convention Center Pamir



目次/Contents

内閣総理大臣からの御挨拶/Message from the Prime Minister of Japan	1,2
スケジュール 12月13日 (火)	3
Schedule December 13 (Tue)	4
スケジュール 12月14日 (水)	5
Schedule December 14 (Wed)	6
ハイレベル・ラウンド・テーブル/High-Level Round Table	
H-1 STEM (科学・技術・工学・数学) 分野における女性の人材育成・活躍促進	9,10
H-1 Developing Capacity of Women and Promoting Their Active Roles in Science,	
Technology, Engineering and Mathematics (STEM)	
H-2 女性のリーダーシップの推進 ······	
H-2 Promoting Women's Leadership	
H-3 ワークライフ・マネジメント 2.0 ·······	
H-3 Work-Life Management 2.0	19,20
H-4 女性の健康を考える -特に性と生殖に関する健康と権利の向上に関連して	21,22
H-4 Women's Well-being -Especially Improving Sexual and Reproductive Health and Rights	
H-5 平和・安全保障における女性の参画とエンパワーメント	25,26
H-5 Participation and Empowerment of Women in Peace and Security	27,28
スペシャル・セッション/Special Sessions	
S-1 若者が作りたいジェンダー平等社会とは -現状と課題	31,32
S-1 Gender Equality from Youth Perspective -Current Situation and Challenge	33,34
S-2 地方からのイノベーション: 女性が「真」に輝く社会とは?	35,36
S-2 Innovation from Local Communities: Toward Society where Women "Truly" Shine	37,38
略歷/Curriculum Vitae	
(1) 日本政府要人/Representatives from the Government of Japan	
(2) 参加者/Participants·····	
(3) 事務局/Secretariat for WAW! 2016······	68
対外発信/Public Relations Efforts	71

内閣総理大臣からの御挨拶



内閣総理大臣 安倍 晋三

「女性が輝く社会」をつくる。 日本にも、世界にも。 そのためには、社会に深く根ざしている働き方や、 ライフスタイルも変わらなければなりません。

昨年に引き続き、今年も 女性の活躍を応援する国際会議、WAW! を、日本が主催します。

今回のテーマは「行動するWAW!、WAW! for Action」。 多様性があり、しなやかで豊かな社会を実現するため、 一人一人ができることを行動に移そう、 というメッセージです。

共に考え、共に行動しましょう。

安倍晋三

写真:内閣広報室提供



Message from the Prime Minister of Japan



Prime Minister of Japan Shinzo Abe

Create a society where women shine in Japan and the world.

To this end, working-style and life-style deeply rooted in the society should be changed.

This year, Japan continues to host WAW!, an international conference to encourage women's participation in the society.

"WAW! for Action" is this year's theme. This is a message urging everyone to take actions for realizing diverse, flexible and affluent society.

Let us think and act together.

Shingo ale



スケジュール

12月13日 (火): 公開フォーラム (於:北辰)

15:00~15:15	開会挨拶 安倍内閣総理大臣
15:15~15:35	基調講演 マーニー・レヴィーン:インスタグラム最高執行責任者(COO)
15:35~15:55	挨拶 榊原定征:日本経済団体連合会会長 小池百合子:東京都知事 ビデオメッセージ アウン・サン・スー・チー:ミャンマー連邦共和国国家最高顧問
15:55~16:35	パネル・ディスカッション1:女性が担う平和な社会づくり ・マリエット・スクールマン:NATO女性・平和・安全保障担当特別代表 ・アウット・デン・アチュイル:ジェンダー・児童・社会福祉大臣,南スーダン ・スン・スレイトーイ:赤十字国際委員会障害者インクルージョン・オフィサー ・シエン・ソクチャン:バッタンバン女性障害者協会理事/車椅子バスケット連盟 コーチ
16:35~16:50	挨拶 プムズィレ・ムランボ=ヌクカ:国連事務次長兼UN Women 事務局長 ビデオメッセージ 澤穂希:元サッカー女子日本代表
16:50~17:30	パネル・ディスカッション2:スポーツと女性 ・伊調馨 : リオオリンピック レスリング金メダリスト ・辻沙絵 : リオパラリンピック 陸上銅メダリスト ・成田真由美:アテネパラリンピック 水泳金メダリスト ・三宅宏実 : リオオリンピック 重量挙げ銅メダリスト



Schedule

Tuesday, December 13 : Public Forum (at Hokushin)

15:00~15:15	Opening Speech Mr. Shinzo Abe, Prime Minister of Japan
15:15~15:35	Keynote Speech Ms. Marne Levine, COO of Instagram
15:35~15:55	Remarks Mr. Sadayuki Sakakibara, Chairman of Keidanren, Japan Business Federation Ms. Yuriko Koike, Governor of Tokyo Video Message Ms. Aung San Suu Kyi, State Counsellor of the Republic of the Union of Myanmar
15:55~16:35	 1st Panel Discussion: Building Peace in Society by Women Ms. Marriët Schuurman, NATO Secretary General's Special Representative for Women, Peace and Security Ms. Awut Deng Acuil, Minister of Gender, Child and Social Welfare, Republic of South Sudan Ms. Sun Sreytouch, ICRC staff, Cambodia Ms. Sieng Sokchan, the captain of Cambodia's first women's wheelchair basketball team
16:35~16:50	Remarks Ms. Phumzile Mlambo-Ngcuka, UN Under-Secretary-General, Executive Director of UN Women Video Message Ms. Homare Sawa, Former captain of the Japan women's national football team
16:50~17:30	 2nd Panel Discussion: Sports and Women Ms. Kaori Icho, Rio Olympic wrestling gold medalist Ms. Sae Tsuji, Rio Paralympic track and field bronze medalist Ms. Mayumi Narita, Athens Paralympic swimming gold medalist Ms. Hiromi Miyake, Rio Olympic weight lifting bronze medalist



スケジュール

12月14日 (水):ハイレベル・ラウンド・テーブル

10:00~11:00	オープニング・セッション(於:白雲 開会挨拶	・慶雲)			
11:15~12:45	ハイレベル・ラウンド・テーブル & スペシャル・セッション(午前の音				
	ハイレベル・ラウンド・テーブル	スペシャル・セッション			
	H-1 (於: 1階 瑞光) STEM (科学・技術・工学・数学) 分 野における女性の人材育成・活躍促進	S-1 (於: 3階 慶雲) ユース・テーブル: 若者が作りたいジェンダー平等社会 とは -現状と課題-			
	H-2 (於:1階 旭光) 女性のリーダーシップの推進				
	H-3 (於: 1 階 暁光) ワークライフ・マネジメント 2.0				
	H-4 (於: 2階 青葉) 女性の健康を考える - 特に性と生殖に関する健康と権利の 向上に関連して				
	H-5 (於: 2階 松葉) 平和・安全保障における女性の参画と エンパワーメント				
14:45~16:15	$45\sim16:15$ ハイレベル・ラウンド・テーブル $\&$ スペシャル・セッション(2				
	ハイレベル・ラウンド・テーブル	スペシャル・セッション			
	H-1 (於:1階 瑞光) STEM (科学・技術・工学・数学) 分 野における女性の人材育成・活躍促進	S-2 (於: 3階 慶雲) 地方からのイノベーション: 女性が「真」に輝く社会とは?			
	H-2 (於: 1 階 旭光) 女性のリーダーシップの推進				
	H-3 (於: 1 階 - 暁光) ワークライフ・マネジメント 2.0				
	H-4 (於: 2階 青葉) 女性の健康を考える - 特に性と生殖に関する健康と権利の 向上に関連して				
	H-5 (於: 2階 松葉) 平和・安全保障における女性の参画と エンパワーメント				
16:30~17:30	クロージング・セッション(於:白雲 各セッションの報告 閉会挨拶	• 慶雲)			



Schedule

Wednesday, December 14 : High-Level Round Table

11:15~12:45	High-Level Round Table & Special Session (Morning Session)			
	High-Level Round Table	Special Session		
	H-1 (at 1F Zuiko) Developing Capacity of Women and Promoting Their Active Roles in Science, Technology, Engineering and Mathematics (STEM)	S-1 (at 3F Keiun) Youth Table: Gender Equality from Youth Perspective —Current Situation and Challenge—		
	H-2 (at 1F Kyokko) Promoting Women's Leadership	_		
	H-3 (at 1F Gyoko) Work-Life Management 2.0			
	H-4 (at 2F Aoba) Women's Well-being -Especially Improving Sexual and Reproductive Health and Rights—			
	H-5 (at 2F Matsuba) Participation and Empowerment of Women in Peace and Security			
	women in I eace and Security			
14:45~16:15	High-Level Round Table & Special So	ession (Afternoon Session)		
14:45~16:15		ession (Afternoon Session) Special Session		
14:45~16:15	High-Level Round Table & Special So			
14:45~16:15	High-Level Round Table & Special So High-Level Round Table H-1 (at 1F Zuiko) Developing Capacity of Women and Promoting Their Active Roles in Science, Technology, Engineering and	Special Session S-2 (at 3F Keiun) Innovation from Local Communities: Toward Society where Women "Truly"		
14:45~16:15	High-Level Round Table & Special So High-Level Round Table H-1 (at 1F Zuiko) Developing Capacity of Women and Promoting Their Active Roles in Science, Technology, Engineering and Mathematics (STEM) H-2 (at 1F Kyokko)	Special Session S-2 (at 3F Keiun) Innovation from Local Communities: Toward Society where Women "Truly"		
14:45~16:15	High-Level Round Table & Special So High-Level Round Table H-1 (at 1F Zuiko) Developing Capacity of Women and Promoting Their Active Roles in Science, Technology, Engineering and Mathematics (STEM) H-2 (at 1F Kyokko) Promoting Women's Leadership H-3 (at 1F Gyoko)	Special Session S-2 (at 3F Keiun) Innovation from Local Communities: Toward Society where Women "Truly"		

ハイレベル・ラウンド・テーブル

High-Level Round Table

- H-1 STEM (科学・技術・工学・数学) 分野における女性の人材育成・活躍促進
- H-1 Developing Capacity of Women and Promoting their Active Roles in Science, Technology, engineering and Mathematics (STEM)
- H-2 女性のリーダーシップの推進
- H-2 Promoting Women's Leadership
- H-3 ワークライフ・マネジメント2.0
- H-3 Work-Life Management 2.0
- H-4 女性の健康を考える -特に性と生殖に関する健康と権利の向上に関して
- H-4 Women's Well-being -Especially improving sexual and Reproductive Health and Rights-
- H-5 平和・安全保障における女性の参画とエンパワーメント
- H-5 Participation and Empowerment of Women in Peace and Security

H-1 STEM (科学・技術・工学・数学) 分野における女性の人材育成・活躍促進

現状・課題

世界各国が包括的かつ公平で持続可能な成長を実現し、持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向け貢献するためには、イノベーションを担う多様な人材を創出することが必要であり、そのためには女性・女児の社会参画とリーダーシップ発揮のための平等な権利、質の高い教育と保健等へのアクセス及び機会の保障は不可欠である。そのため、従来女性の参加が相対的に少なかった、科学技術、情報・コミュニケーション、医療などの分野への女性の参加推進等を通じ、教育・職業訓練及び職業におけるジェンダー格差と固定観念を撤廃し、女性の将来の職種や専門分野の選択肢の多様化や自己実現に向けた取組を支援することが重要である。

本年5月のG7倉敷教育大臣会合における「倉敷宣言」では、包摂的かつ公平で持続可能な成長のための女児・女性のエンパワーメントの促進について合意がなされ、とりわけ科学、技術、工学、数学(STEM)を含む全ての分野において女性が積極的に参画できる平等な機会を保障する重要性について共通の認識を得た。また、G7伊勢志摩サミットの首脳コミュニケにおいても、UN Womenの女性のエンパワーメント原則(WEPs)を促進し、指導的地位への平等な機会を確保すること等が合意されるとともに、教育大臣会合における議論も踏まえつつ、STEM分野における女性の積極的な役割の拡大及び本分野におけるキャリアの促進は、人材プールを拡大し、かつ創造性及びイノベーションの力を高めることから、G7イニシアティブとして「女性の理系キャリア促進のためのイニシアティブ(WINDS)」が立ち上げられた。

社会の多様性を高め、イノベーション力を高めていくことは先進国に限らず各国共通の課題であり、商品開発や研究開発における多様な観点の導入は、イノベーションを促進し、世界の諸課題を解決する鍵になりうるものとして近年注目されている。また、特定の業種・業態における男女間の不均衡は、男女間給与格差の一因でもあると考えられる。

女性研究者は、日本を含め世界で増加傾向にあるものの、依然としてその割合は英国や米国においても30%程度であり、日本においては、15%程度に留まる。この背景として、STEM分野を選択する女性は男性に比して少ないことがあり、STEM分野における人材プールを拡大していくためには、自己のキャリアとしてSTEM分野を選択する女子学生を増やしていく必要がある。また、女性のライフイベントに応じた能力開発・職業教育の提供も課題となっている。

論点

- STEM分野に女性を増やすことの社会的メリットは何か。
- STEM分野を進路として選択する女子生徒・学生等を増やす方策は何か。
- 女性のライフイベントに沿った生涯にわたる学習や職業教育を含めた能力開発の機会の提供方法は何か。
- STEM分野における女性人材のキャリア開発のための方策は何か。
- STEM分野における女性人材の育成に向け、産学官の連携を強化するための方策は何か。



参加者の名前

■モデレーター

仲條 亮子

グーグル合同会社執行役員、アジア太平洋地域Partner Plex代表

■ラポラトゥール

ステファニー・フォスター

米国務省グローバル女性課題室シニア・アドバイザー/参事官(アメリカ)

リュドミラ・アントノフスカヤ

ポリマスター・ホールディング社長 / ポリマスター社CEO (ベラルーシ)

モンセラ・ゴメンディオ OECD教育・スキル局次長 (スペイン)

イー・アール・エム日本株式会社主席コンサルタント(アメリカ)

黒田 玲子

東京理科大学教授/東京大学名誉教授

アヴリル・マクドナルド

レベッカ・K・グリーン

レイディング大学教授

宮嶋 麻由

集まれ理系女子!実行委員会創設者/九州大学工学部学生

プムズィレ・ムランボ=ヌクカ

国連事務次長兼UN Women 事務局長 (南アフリカ)

室伏 きみ子

お茶の水女子大学長

二宮 くみ子

味の素理事

尾崎 マリサ (スプツニ子!)

シモーナ・セッテパネッラ

現代美術家/ MITメディアラボ助教授

バンカー・ロイ

ベアフット・カレッジ創立者 (インド) 北海道大学 准教授

玉城 絵美

H2L株式会社共同創業者/国立研究開発法人科学技術振興機構

(JST) さきがけ研究員 / 早稲田大学人間科学学術院助教

渡辺 美代子

科学技術振興機構(JST)副理事

メアリー・ウエールズ

ウォータールー大学教授(カナダ)

イリス・ヴィーツォレック

株式会社IRIS科学・技術経営研究所 ライブニッツ協会 日本代表 /

GIGA 研究員

ビビアン・ウィリス・マッツィッチ 欧州委員会ジェンダー課長(フランス)

依田 みなみ

電気通信大学大学院情報システム学研究科修士2年生



H-1 Developing Capacity of Women and Promoting Their Active Roles in Science, Technology, Engineering and Mathematics (STEM)

Current Situation and Issues

Fostering diverse human resources that can contribute to innovation is needed to enable the world to ensure sustainable, inclusive, and equitable growth, and to achieve the Sustainable Development Goals (SDGs). To that end, participation of women and girls in society, equal right for leadership, high-quality education, and access to health service are essential. It is important to eliminate gender disparity and gender stereotyping in education, vocational training and professions, to diversify women's career and choices, and to support the efforts for achieving their goals through the efforts to promote women's participation in science and technology, information and communication, and medical field where women's participation has been relatively limited in the past.

"Kurashiki Declaration" adopted at the G7 Kurashiki Education Ministers' Meeting in May, 2016, recognized the importance to promote the empowerment of women and girls to achieve sustainable, inclusive and equitable growth, and to ensure the equal opportunities for women's full and effective engagement in all fields including STEM. G7 Ise-Shima Leaders' Declaration also stressed the necessity to ensure equal opportunities for leadership and promotion of the Women's Empowerment Principles (WEPs) of UN Women. Based on the discussion at the Education Ministers' Meeting, Women's Initiative in Developing STEM career (WINDS) was launched as a G7 initiative, as promoting the active role of women and women's career in STEM fields would contribute to broadening the talent pool and enhancing creativity and innovation.

Fostering diversity in society and innovation is the common challenge not only in developed countries but also in other countries, and introducing the various perspectives in product development and research has promoted innovation and has been widely recognized as a key to address the challenges in the world. Also, gender imbalance in specific professions is seen as one of the causes of gender gap in salary.

The percentage of the female researchers in STEM fields has been increasing, but it is still low, resulting in about 30% in the United Kingdom and the United States and about 15% in Japan. The reason for this low percentage is the limited number of women who choose STEM courses compared with men, thus increasing the number of female students choosing STEM career is needed for expanding the pool of human resources in STEM. In addition, offering the opportunities for capacity development and vocational training in women's each life-stage is critical.

Issues to Be Discussed

- What is the social merit in increasing the percentage of women in STEM?
- What measures are needed to increase the number of female students who choose STEM fields?
- What are your ideas to offer the life-long learning and capacity development including vocational training in women's each life-stage?
- What measures are necessary to develop women's career in STEM?
- What are your ideas to strengthen industry-academia-government cooperation for developing female human resources in STEM?



Participants

■ Moderator

Akiko Nakajo Director, Regional Head of APAC Partner Plex, Google Japan Inc.

■ Rapporteur

Stephenie Foster Senior Advisor and Counselor, Secretary's Office of Global Women's

Issues, US Department of State (USA)

Liudmila Antonavskaya Director of Polimaster Holding GmbH, Chief Executive Officer at Polimaster

Inc. (Belarus)

Montserrat Gomendio Deputy Director for the Directorate for Education and Skills, OECD (Spain)

Rebecca K Green Principal Consultant at ERM Japan (USA)
Reiko Kuroda Professor at Tokyo University of Science
Averil MacDonald Professor at the University of Reading (UK)

Mayu Miyajima Founder, Bring it in, STEM girls! Executive Committee / Student of Kyushu

University Faculty of Engineering

Phumzile Mlambo-Ngcuka UN Under-Secretary-General, Executive Director of UN Women (South Africa)

Kimiko Murofushi President, Ochanomizu University Kumiko Ninomiya Corporate Fellow, Ajinomoto

Marisa Ozaki (Sputniko!) Artist/Assistant Professor of MIT Media Lab
Bunker Roy Founder and Director, Barefoot College (India)
Simona Settepanella Associate Professor of Hokkaido University

Emi Tamaki Co-Founder, H2L Inc.

Miyoko O. Watanabe Deputy Executive Director, Japan Science and Technology Agency

Mary A. Wells Professor at University of Waterloo (Canada)

Iris Wieczorek Japan Representative Leibniz Association, IRIS Science Management Inc. /

Senior Researcher, GIGA German Institute of Global and Area Studies

Viviane Willis-Mazzichi Head of Sector Gender – Directorate General Research & Innovation, European

Commission (France)

Minami Yoda Second Year Graduate Student of Information Systems, the University of

Electro-Communications

H-2 女性のリーダーシップの推進

現状・課題

第4回世界女性会議行動綱領において、意思決定レベルの女性の参画の重要性を含むあらゆる分野における女性の参画について合意して20年以上が経った。また、日本においても、職場における男女の差別を禁止する男女雇用機会均等法が施行されてちょうど30年が経過した。今では女性が組織の管理職に就くことは珍しいことではなくなったが、女性達は本質的な組織の意思決定に関わっているであろうか。

意思決定レベルへの女性の平等な参画は、道義的な問題にとどまらない。政治分野における女性の参画推進は、社会の構成をより正確に反映し、多様な民意を反映させるという観点から、特に地方において極めて重要である。経済分野においては、女性が企業の責任ある地位で活躍することは、多様な価値観が企業の経営に反映されるとともに、イノベーションが促進され、企業競争力、社会的評価が向上し、企業価値の向上にもつながる。資本市場においては、企業の持続的成長に関心が高まる中で、女性活躍に積極的に取り組み、経営力を高めている企業を評価する流れもある。例えば、ESG(環境、社会、ガバナンス)投資において女性の活躍情報が重視されることも考えられる。

日本政府は、「社会のあらゆる分野において、2020年までに、指導的地位に女性が占める割合が、少なくとも30%程度となるよう期待する」という目標を掲げ、女性の人材が上位の職位へ着実にステップアップするよう様々な取組を実施している。具体的には、今年4月に完全施行された女性活躍推進法に基づく企業等の行動計画の策定・公表や情報公表の促進、同法に基づく認定企業等を公共調達等において評価する取組、女性役員候補者の育成の在り方についての検討、組織トップ自らが女性活躍推進に取り組むムーブメントの全国への拡大等を強力に推進している。

女性のさらなる参画が、質の高い成長のために欠かせないものであることが広く理解されているにもかかわらず、なぜ目に見える形での進展が見られないのであろうか。昨年のWAW!では、長時間労働の是正やリーダーの意識改革の必要性等が提言された。リーダーの意識改革だけではなく、女性自身がキャリアを形成していくイメージや意欲を持てるような取組が必要である。女性管理職が少ない又はいない理由として、「女性が希望しない」、「女性に昇進意欲がない」と指摘されることが少なくない。しかし、女性の場合は管理職に昇進することで仕事と家庭の両立の難しさを懸念する面や身近にロールモデルがいないといった側面が強く、「女性にはチャレンジ精神が足りない」と捉えることは必ずしも的を射ていない。女性社員が抱く仕事と家庭の両立への懸念が解消され、ロールモデルとなるような女性管理職が身近に現れるようになれば、管理職に登用される女性も増えていくものと考えられる。また、女性が活躍する企業が資本市場や調達等を通じて社会において評価されることも重要な鍵と考えられる。

論点

- 世界及び日本で女性リーダーの増加を阻んでいる課題は何か。
- あらゆる分野で女性リーダーが増えることの経済的・社会的インパクトは何か。
- 組織において、中間管理職、男性、女性の行動を変革させるために必要な取組は何か。
- あらゆる分野で女性リーダーを増やすために、どのような育成方法が必要か。
- 女性リーダーの増加を促進する上で、都市と地方の格差をどのように縮小していけるか。
- 資本市場等を通じて、女性リーダーの増加を促す方策は何か。



参加者の名前

■モデレーター

津坂 美樹 ボストン・コンサルティング・グループ (BCG) シニア・パートナー&

マネージング・ディレクター

■ラポラトゥール

キャサリン・アダムス ハネウェル上級副社長兼ゼネラルカウンシル (アメリカ)

アビゲール・フリードマン アジア財団上級顧問 (アメリカ)

林 文子 横浜市長

細川 稀叶 一般社団法人ウーマン・イノベーション協会代表理事

ホ・ムンミョン 東亜日報論説委員(韓国)

水野 弘道 年金積立金管理運用独立行政法人 (GPIF) 理事兼CIO (最高投資責任者)

アイリーン・ナタビダッド 世界女性サミット会長 (アメリカ) 大宮 英明 三菱重工業株式会社取締役会長

オヨーン・サンジャースレン ゾリグ基金会長, 元外務大臣 (モンゴル)

アンジャン・シャキャ 国際問題センター主宰 (ネパール)

鈴木 英敬 三重県知事

内永 ゆか子 NPO法人ジャパン・ウィメンズ・イノベイティブ・ネットワーク

(J-Win) 理事長



H-2 Promoting Women's Leadership

Current Situation and Issues

More than 20 years have passed since the agreement of women's participation in all spheres of society, including participation in the decision-making process, on the Platform for Action of the 4th World Conference on Women. Also in Japan, 30 years just passed since the Act on Securing, Etc. of Equal Opportunity and Treatment between Men and Women in Employment which prohibits gender discrimination in the workplace came into force. Today, it is not unusual for women to be in management positions, however, are they really involved in the fundamental decision-making process?

Women's equal participation in decision-making level does not remain in a moral issue. Promoting women's participation in politics is extremely important especially in rural areas, from the perspective of representing social structure more accurately, and reflecting a variety of public opinion. In the economic field, the fact that women are active in a company's responsible position means that diversified values are reflected in the management of the company, innovation is promoted, corporate competitiveness and social evaluation are improved while leading to improvement in corporate value. In the capital markets, there is a trend to evaluate companies that are actively working on women's success and raising their management skills, as the interest in sustainable growth of companies is rising. For example, information about women's activities may be emphasized in the Environmental, Social and Government (ESG)investment.

Japan has set the goal of "expecting the percentage of women to be at least 30% in leadership positions by 2020 in all sectors of society", and implements various initiatives for steadily promoting women to higher positions. In particular, Japan strongly promotes formulation and publication of corporate action plan based on the Act on Promotion of Women's Participation and Advancement in the Workplace fully enforced in April 2016 and publication of related information, efforts to evaluate accredited companies under the Act in public procurement, the examination of the way to foster female executive candidates, and expansion of the movement to nationwide efforts to promote women's success conducted by companies' executives.

Despite the broad understanding that women's further participation is indispensable for high-quality growth, why is not there any progress in the visible form? In WAW! 2015, the need to change long hours working and awareness of leaders was proposed. It is necessary not only to change the awareness of the leader but also to take an initiative which enables women to have image and motivation for their career. It is often pointed out that "women do not hope" and "women do not have a desire to be promoted" as reasons for few or no female managerial positions. However, in the case of women, there are strong concerns about difficulties in balancing work and family by promoting to a managerial position, and the absence of role model close to them. So, it is not quite right to consider "women have no challenging spirit". If female employees resolve concerns about balance between work and family and female managers who could be role models become familiar, it is considered that more women are appointed to managerial positions. It is also considered important that companies in which women play an active role are evaluated in society through capital markets and procurement etc.

Issues to Be Discussed

- What are the challenges that are preventing the increase of female leaders in the world and Japan?
- What is the economic and social impact of increasing the number of female leaders in all areas?
- In organizations, what are the efforts necessary to change the behavior of middle managers, men, and women?
- What kind of training methods is necessary to increase female leaders in all fields?
- How can we reduce the disparity between urban and rural areas in promoting the increase of female leaders?
- What are the ways to encourage the increase of female leaders through capital markets and others?



Participants

■ Moderator

Miki Tsusaka Senior Partner and Managing Director of The Boston Consulting Group

■ Rapporteur

Katherine L. Adams Senior Vice President and General Counsel, Honeywell International Inc. (USA)

Abigail Friedman Senior Advisor to The Asia Foundation (USA)

Fumiko Hayashi Mayor of Yokohama

Maki Hosokawa Association of Woman Innovation Representative Director

Mun-Myung Huh Editorial Writer, Dong-A ILBO (Republic of Korea)

Hiromichi Mizuno Executive Managing Director and CIO (Chief Investment Officer), Government

Pension Investment Fund (GPIF)

Irene Natividad President, Global Summit of Women (USA)

Hideaki Omiya Chairman of the Board, Mitsubishi Heavy Industries, Ltd.

Oyun Sanjaasuren Chair of the Zorig Foundation, Former Minister of Foreign Affairs (Mongolia)

Anjan Shakya Chairperson of International Concern Center (Nepal)

Eikei Suzuki Governor of Mie Prefecture

Yukako Uchinaga Board Chair, J-Win (Japan Women's Innovative Network)

H-3 ワークライフ・マネジメント 2.0

現状・課題

個人の持つ時間は有限である。仕事(ワーク)と生活(ライフ:家庭、育児、介護、趣味等)の調和の実現は、個人の時間の価値を高め、安心と希望を実現できる社会づくりに寄与するものであり、公共の活動等への参加機会の拡大などを通じて地域社会の活性化にもつながるものである。日本では、仕事と生活の調和に向けた取り組み、ワーク・ライフ・マネジメントに関心が高まりつつあるが、同時に様々な課題が見えてきた。例えば、週労働時間60時間以上の雇用者の割合が依然高い水準で推移している。背景には、上司、被雇用者自身による長時間労働へのポジティブなイメージ、長時間働くほど残業代が支払われる給与制度、そして成果による評価が導入されていないこと等が挙げられよう。また、結婚後の女性の離職率は17%、第一子出産時の離職率は46.9%である¹。離職をせず短時間勤務制度や育児・介護休暇制度を活用した女性でも、昇進とは縁遠いキャリア・コース(いわゆるマミー・トラック)を進まざるを得なくなる場合もあるだろう。健康と生活に配慮するとともに、労働者の多様なニーズに対応した働き方を可能にすることは、多様な人材の活躍を進め、企業競争力を高めるためにも不可欠であり、程度の差はあれ、ワーク・ライフ・マネジメントは引き続き世界共通の課題と考える。また、近年は、ワーク・ライフ・マネジメントと言うとき、「ワーク」の意味するところは、単に生活と両立できれば良いのではなくて、自らの人生の一部として追求していくものという、より豊かな意味を持って捉えられつつある。

日本政府は、仕事と生活の調和の推進のため、経済界、労働界、国・地方公共団体と協力して、制度的枠組みの構築、環境整備、また、様々なキャンペーンを通じた日本全体の気運の醸成を推進している。本年からは、女性活躍推進法に基づく認定等、企業を公共調達において評価する取組や「働き方改革実現会議」を開催し、長時間労働の是正、テレワークなどの柔軟な働き方、子育て・介護と仕事の両立等に取り組んでいる。また、職場の意識や職場風土の改革とあわせ、働き方の改革に自主的に取り組む民間企業も多く見られる。

このように女性も男性も対象とした様々な取り組みが官民により行われてきたが、男女共に、自分の人生の一部としての仕事と生活を実現できるようにするために制度構築、意識改革の更なる取り組みが必要とされている。

論点

- ワークライフ・マネジメント推進のための柔軟な働き方を促進する上での課題は何か。
- 時間的制約のある働き手を活躍させる方策は何か。
- 情報通信技術を活用して柔軟に働くことを促進するためには何をすべきか。どのような障害があり、どのように克服すべきか。
- 特に上司、女性自身の意識改革を促進し、また世代間の意識の違いを乗り越えるための良い方策は何か。
- 家庭における男性の関わり、意識改革を促進するための良い方策は何か。
- 本業の他に地域活動、学びの場等を持つ「パラレル・キャリア」の促進には、どのような効果、課題があるか。

¹ 国立社会保障・人口問題研究所「第15回出生動向基本調査」(2016年9月)



参加者の名前

■モデレーター

西村 篤子 特命全権大使 女性・人権人道担当

■ラポラトゥール

アイリーン・ヒラノ・イノウエ 米日カウンシル (USJC) 会長 (アメリカ)

青野 慶久 サイボウズ株式会社代表取締役社長

アランチャ・ゴンザレス 国際貿易センター (ITC) 事務局長 (スペイン) 本田 哲也 ブルー・カレントジャパン代表取締役社長

伊東 正仁 損害保険ジャパン日本興亜株式会社取締役常務執行役員

治部 れんげ 昭和女子大学現代ビジネス研究所研究員

カミナ・ジョンソン=スミス 外務・貿易大臣(ジャマイカ)

神戸 洋美 愛知県議会議員

キャシー 松井 ゴールドマン・サックス証券株式会社副会長

エリーズ・モワゾン FORCE FEMMES代表 (フランス)

成澤 廣修 文京区長

ライモ・ペルシネン 国会議員(社民党)(スウェーデン)佐々木 かをり 株式会社イー・ウーマン代表取締役社長

ジェニファー・セマクラ・ムシシ カンパラ市事務局長(ウガンダ)



H-3 Work-Life Management 2.0

Current Situation and Issues

The time given to each of us is limited. Realizing the harmonization of work and life (e.g. family life, childcare, nursing, and hobbies) enhances the values of individual's time and contributes to creating a society where peace of mind and hopes can be realized, and it also leads vitalization of communities through increasing opportunities of participation in public and other activities. While efforts for harmonization of work and life, what we call work-life management, are commanding attention in Japan, various challenges have also become obvious. For example, the rate of employees working more than 60 hours per week still remains high. Long working hours are due to the fact that not only managers but also employees themselves have positive images of people working overtime and that employees are paid not based on outcomes but on hours they work. In addition, the rate of women who leave their jobs after marriage is 17%, and the rate of these after their first delivery is as high as 46.9%. Even when women benefit from measures such as short working hours and child-care/nursing leave, they might be forced to choose a career path deviated from promotion (what we call "Mommy Track"). In fully utilizing various human resources and increasing competitiveness, it is inevitable for companies to provide various work-styles which meet each employee's need, as well as to consider health and life of each. To greater or lesser degree, work-life management remains a common challenge faced by every nation. Recently, "work" in the context of "work-life management" tends to be interpreted as what should be pursued as part of life, not simply what is compatible with life.

The Government of Japan has generated momentum for promotion of harmonization of work and life through developing institutional frameworks, improving labor environment and hosting various campaigns in cooperation with business communities, labor unions and, ministries and local governments. The Government of Japan strives to reduce long working hours, familiarize flexible work-style such as telework and support the efforts of people to split their time between their work and such activities as child-caring and nursing. As a part of these efforts, this year, the Government of Japan has launched an initiative to evaluate certified private companies etc. which make good practices based on "The Act on Promotion of Women's Participation and Advancement in the Workplace" in process of public procurement, and established "Council to Realize Working-style Reform". Furthermore, many private companies undertake reforms on work-style, in tandem with these on mentality of employees and corporate cultures.

Although various initiatives targeting both men and women have been conducted as described above, further efforts are required in the institutional building and mindset change so that both men and women can realize work and life as part of their own lives.

Issues to Be Discussed

- · What challenges do we face in facilitating flexible work-style in order to put work-life management into practice?
- What measures are needed to make workers with limited time play an active role?
- How can we utilize IT technology to promote flexible work-style? What obstacles do we face, and how can we overcome?
- What are good measures to promote changes in mindset of senior managements and women, and to overcome perception gap among generations?
- · What are good measures to promote men's commitment to their family and change their mindset?
- What effects do we have and what challenges do we face in promoting "parallel career", a concept that people commit to activities such as community activities and learning other than their regular business?

¹ National Institute of Population and Social Security Research, "The 15th Japanese National Fertility Survey"



Participants

■ Moderator

Atsuko Nishimura Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary for Women, Human Rights and

Humanitarian Affairs

■ Rapporteur

Irene Hirano Inouye President, U.S.-Japan Council (USA)

Yoshihisa Aono President, Cybozu Inc.

Arancha Gonzalez Executive Director, International Trade Centre (ITC) (Spain)

Tetsuya Honda Managing Director/ CEO, BlueCurrent Japan Inc.

Shoji Ito Director, Managing Executive Officer, Sompo Japan Nipponkoa Insurance Inc.

Renge Jibu Visiting researcher, Showa Women's University

Kamine Johnson Smith Minister of Foreign Affairs and Foreign Trade (Jamaica)

Hiromi Kambe Member of Aichi Prefectural Assembly
Kathy Matsui Vice Chair at Goldman Sachs Japan Co.,Ltd.
Elise Moison Director of FORCE FEMMES (France)

Hironobu Narisawa Bunkyo City Mayor

Raimo Parssinen Member of Parliament (Social Democratic Party) (Sweden)

Kaori Sasaki Founder &CEO ewomen, Inc.

Jennifer Semakula Musisi Executive Didector, Kampala Capital City Authority (KCCA) (Uganda)

H-4 女性の健康を考える —特に性と生殖に関する健康と権利の向上に関連して

現状・課題

心身共に健やかであることは、豊かな生活を送る上で男女を問わず重要である。しかし、女性には、妊娠・出産をはじめとする女性特有のイシューがある。女性が自分の健康について正確な知識を得られること、また、関連サービスへのアクセスが容易にできることは、女性が自らの生活について自分で意思決定するために必要である。しかしながら、世界には女性が主体の妊娠に関わる意思決定と計画性の欠如、妊産婦死亡、HIV/AIDSをはじめとした性感染症や女性性器切除等の課題がある。このような問題は、特に途上国では早期・強制婚や若年妊娠等による女性の就学率の低下、就業率の低下、GDPの低下、貧困の増加等、開発課題とも深く関わっている。また、性と生殖に関する健康と権利は、先進国の課題でもある。女性の健康に関する正確な知識が時として普及していなかったり、実践されないため、予期せぬ妊娠、また、それに起因する育児放棄や児童虐待等の問題がある。例えば、日本において、15歳から49歳の女性のうち、近代的避妊方法を実行している割合は50パーセント1に留まり、乳がんや子宮頸がんの検診率も低い。

持続可能な開発目標では「2030年までに、家族計画、情報・教育及び性と生殖に関する健康の国家戦略・計画への組み入れを含む、性と生殖に関する保健サービスをすべての人々が利用できるようにする」ことが目標として挙げられている。2016年のG7伊勢志摩サミットの際に発出された「G7女性の能力開花のためのG7行動指針」では、「我々は、引き続き、家族計画サービスを含む、女性及び女児のための健康サービスの提供を優先させること、また、女性及び女児が教育、訓練、経済的機会に参加する能力を促進することを視野に入れ、保健や生殖に関して十分な情報を得た上で意思決定ができる権利を強化する取組を支援することにコミットする」旨が述べられており、また「国際保健のためのG7伊勢志摩ビジョン」では、特に青少年に着目し、「青少年にやさしいサービス及び青少年の参加に焦点を当て、性と生殖に関する健康と権利及びサービスへのアクセスを提供」することの必要性が強調された。先進国・途上国にかかわらず、国際社会全体の更なる取り組みが期待される。

女性がライフサイクルにおいて心身共に健康でいるためには、十分な知識・情報を得ること、自らが決定 し人生を計画するという基本的な権利の充足に加え、男性を含む地域社会の意識の変革も重要であり、様々 なステークホルダーによる多角的な取り組みの検討が必要である。

論点

- 世界と日本で、性と生殖に関する健康と権利の向上に向けた課題は何か。
- 特に青少年に対して、性と生殖に関する健康と権利の情報及びサービスへのアクセスを提供するためには、 公教育や他のステークホルダーにより、どのような取り組みが可能か。
- 性に関する問題に保守的な国において、どのようなアプローチが効果的か。
- 妊娠や出産、性感染症の予防等、女性の健康においては、男性の理解と参加が不可欠だが、男性の理解促進にはどのようなアプローチが効果的か。

¹ UNFPA「世界人口白書2015」



参加者の名前

■モデレーター

石井 澄江 公益財団法人ジョイセフ (JOICFP) 代表理事・理事長

■ラポラトゥール

スーザン・ハーバート メルク上級副社長(イギリス)

アンネ・ビルギッテ・アルブレクトセン プラン・インターナショナル最高経営責任者(デンマーク)

ドルジ・チョデン 公共事業居住大臣/女性・子供のための国家委員会会長 (ブータン)

 テウォドロス・メレッセ
 IPPF(国際家族計画連盟) 事務局長 (エチオピア)

 森 まさこ
 参議院議員、元女性活力・子育て支援担当大臣

 ババトゥンデ・オショティメイン
 国連人口基金 (UNFPA) 事務局長 (ナイジェリア)

エリザベス・ラスムーソン 国連WFP事務局次長(ノルウェー)

ロージィ・セナナヤケ 首相府副官房長(スリランカ)

上田 奈生子 経済協力開発機構 (OECD) 開発センター (DEV) 次長

弓削 昭子 法政大学教授



H-4 Women's Well-being -Especially Improving Sexual and Reproductive Health and Rights-

Current Situation and Issues

While being mentally and physically healthy is essential for both women and men to lead rich and fulfilling lives, women have unique issues such as pregnancy and delivery. Receiving appropriate information about their health as well as having easy access to related health services are essential for women to make their own decisions on their lives. Today, there are many challenges such as lack of women's decision-making and plan on their pregnancies, maternal mortality, sexually transmitted diseases (STD) including HIV/AIDS, and female genital mutilation (FGM). These problems are deeply related to development issues such as girls' low enrollment rate, low female employment rate, decrease of GDP, and increase of poverty, partly resulting from early and forced marriage and early pregnancy in developing countries. Issues of sexual and reproductive health and rights are challenges that need to be addressed in developed countries as well. Due to lack of access to appropriate information about women's health and limited practice based on their knowledge, unexpected pregnancy and child neglect/abuse stemming from it are serious issues. For example, in Japan, the percentage of women (15-49 years old) who use modern contraceptive methods is about 50 percent¹, and the rate of women who receive medical check-up on breast cancer and cervical cancer is also low.

Sustainable Development Goals states "By 2030, ensure universal access to sexual and reproductive health-care services, including for family planning, information and education, and the integration of reproductive health into national strategies and programs" as a target of Goal 3. "G7 Guiding Principles for Capacity Building of Women and Girls" released at G7 Ise-Shima Summit in 2016 mentions "We commit to continue to prioritize the provision of health services for women and girls, including family planning services and to support efforts to enhance women's rights to make informed decisions about their health care and fertility, with a view to promoting their ability to take part in education, training and economic opportunities" and "G7 Ise-Shima Vision for Global Health" focuses especially on adolescents and emphasizes the need to "provide access to sexual and reproductive health rights and services with a focus on adolescent-friendly services and participation". International efforts to address these issues are needed both in developed countries and developing countries.

In addition to receiving enough information about women's health and enjoying basic human rights by making their own decisions, it is essential to change the mindset of community including men in order to make women stay mentally and physically healthy in each life-stage. Thus, various measures should be further discussed by multi-stakeholders.

Issues to Be Discussed

- What are the challenges in promoting sexual and reproductive health and rights in Japan and other countries?
- What measures can be taken to provide access to information and service of sexual and reproductive health and rights to adolescents by public education and other stakeholders?
- What are the effective approaches to promote sexual and reproductive health and rights in countries that are conservative about sexual issues?
- It is essential to have men's understanding and participation to address the challenges regarding women's health such as pregnancy, delivery and sexually transmitted diseases. What are the effective approaches to promote men's understanding on these issues?

¹ UNFPA, State of World Population 2015



Participants

■ Moderator

Sumie Ishii Chairperson, Japanese Organization for International Cooperation in Family

Planning (JOICFP)

■ Rapporteur

Susan Herbert Executive Vice President, Global Head, Marketing and Strategy, Merck KGaA

(UK)

Anne-Birgitte Albrectsen CEO, Plan International (Denmark)

Dorji Choden Minister, Chairperson of National Commission for Women and Children

(Bhutan)

Tewodros Melesse Director General, International Planned Parenthood Federation (IPPF) (Etiopia)

Masako Mori Member of the House of Councilors, Former Minister in charge of Support for

Women's Empowerment and Child-Rearing

Babatunde Osotimehin Executive Director of the United Nations Population Fund (UNFPA) (Nigeria)

Elisabeth Rasmusson Assistant Executive Director of the WFP (Norway)

Rosy Senanayake Deputy Chief of Staff of Prime Minister's Office (Sri Lanka)
Naoko Ueda Deputy Director of the Development Centre, OECD (Japan)

Akiko Yuge Professor, Hosei University

H-5 平和・安全保障における女性の参画とエンパワーメント

現状・課題

「女性・平和・安全保障」分野について議論する際、女性が「保護されるべき被害者」としてだけではなく、平和構築の担い手として多様な役割を担っていることが認識されている。2000年に採択された安保理決議第1325号は、女性が紛争に影響を受けていることを認識するとともに、紛争予防・紛争解決・和平プロセス・紛争後の平和構築・ガバナンスにおける意思決定の全ての段階における女性の積極的な参画を要請している。また2016年に国連事務総長が発表した「暴力的過激主義を防止するための行動計画」は包括的な計画であり、女性のエンパワーメントは持続的な平和のために重要であること、またジェンダー平等指数が高い国は暴力的過激主義に対して脆弱でないことは偶然ではないと述べ、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントが重要事項の一つとして挙げられている。

紛争地域の混乱した状況下では、特に女性・女児は脆弱な立場に置かれやすく、性的暴力を含むジェンダーに基づく暴力が蔓延する。また、女性・女児は大規模な自然災害発生時にも、脆弱な立場に置かれやすく、ジェンダーに基づく暴力被害や住居、食糧、仕事へのアクセスの不足等の問題に直面することが多い。女性は、当事者のニーズを最も良く理解する立場にあり、こうした悲惨な事案が発生することを予防するとともに、地域社会の復興のプロセスにおいて積極的で意味のある参画が期待される。

我々は今、暴力的過激主義の台頭、第二次世界大戦以降最高レベルに達する難民・国内避難民の発生、過去に類を見ない規模の自然災害を経験している。国際社会は、女性が和解とコミュニティーの強靱性の強力な担い手であることを十分理解した。平和・安全保障分野への女性の参画、リーダーシップ発揮に向けた具体的な方策について更なる議論が必要である。

論点

- 平和維持活動や紛争防止・治安維持に女性の参画を増やすための具体的方策や課題は何か。
- 司法及び安全保障分野における女性のリーダーシップ育成の現状及びその課題は何か。
- ジェンダーに考慮した人道援助のプログラム形成過程への女性・女児の参画推進を確実なものにするため の課題はなにか。
- 様々なステークホルダーに、平和·安全保障分野への女性参画推進の責任をもたせる効果的な方策は何か。
- 災害リスク削減に関し、女性が有している固有の知識や経験を災害の対応能力として認識・活用するため の方策は何か。
- 災害リスク削減に関わる政策・計画・基準の企画立案と実践において女性の参画を確保し、リーダーシップを促進するために必要な取組は何か。
- 平和な地域社会構築の担い手としての女性を、女性自身は、そして男性はどう受け止めているのか、ギャップがある場合それを解消する方策は何か。



参加者の名前

■モデレーター

山中 燁子 世界津波の日特別大使

■ラポラトゥール

メラニー・バービア ジョージタウン大学女性・平和・安全保障研究所所長(アメリカ)

アウット・デン・アチュイル ジェンダー・児童・社会福祉大臣(南スーダン)

アマト・アル・アリム・スースワ 元イエメン人権大臣 (イエメン)

ヒラリー・アメシカ・グベデマ 法律研究所所長(ガーナ)

橋本 ヒロ子 十文字学園中学高等学校校長, 国連女性の地位委員会日本代表

林 陽子 国連女性差別撤廃委員会委員長

J.A.ヘニス・プラスハート 国防大臣 (オランダ)

北岡 伸一 国際協力機構 (JICA) 理事長 隈元 美穂子 国連ユニタール広島事務所長

アンジュ・マルホトラ UNICEFジェンダー主席アドバイザー (アメリカ)

 マーラ・マリナキ
 欧州対外活動庁ジェンダー首席アドバイザー (ギリシャ)

 野口 元郎
 国際刑事裁判所 (ICC) 被害者信託基金 (TFV) 理事長

マリエット・スクールマン NATO女性・平和・安全保障担当事務総長特別代表 (オランダ)



H-5 Participation and Empowerment of Women in Peace and Security

Current Situation and Issues

In the discussions on "Women, Peace and Security", women have been recognized not only as "victims who need to be protected" but also as peace-builders with multiple roles. UN Security Council Resolution 1325 adopted in 2000 recognizes that women are affected by conflicts, and it calls for women's active participation in all peace building process such as prevention and resolution of conflict and peace building in the aftermath of conflicts. "Plan of Action to Prevent Violent Extremism" released by UN Secretary General in 2016 is the holistic plan and states that the empowerment of women is essential for sustainable peace and it is not coincidence that countries with high gender equality indicators are not vulnerable to violent extremism. The plan prioritizes promotion of gender equality and the empowerment of women as one of the important agendas.

In an unstable situation under conflict, especially women and girls are vulnerable, and gender-based violence including sexual violence spreads. Also, women and girls are likely to be in a vulnerable position even in the event of a large-scale natural disaster, often encountering problems such as gender-based violence and lack of access to housing, food and work. Women are in a position to best understand the needs of their own, and women's active and meaningful participation in local community reconstruction process as well as preventing such disastrous cases from occurring are expected.

Today, there are many pressing issues affecting peace and security such as the rise of violent extremism, the occurrence of refugees and internally displaced people reaching the highest level since World War II, and unprecedented natural disasters. International community has recognized that women are active agents to reconcile and to strengthen communities. Further discussion is needed on women's participation in the field of peace and security, and concrete measures for demonstrating leadership.

Issues to Be Discussed

- What are the challenges and measures to increase women's participation in peace keeping operations, prevention of conflict and maintaining security?
- What are current situation and challenges in capacity development of female leaders in the fields of justice and security?
- What are challenges in ensuring the participation of women and girls in development of humanitarian assistance programs considering gender?
- What are the effective measures to hold various stakeholders accountable to promote women's participation in peace and security?
- What measures can be taken to recognize and utilize knowledge and experience unique to women for disaster risk reduction?
- What measures are needed to increase women's participation and leadership in designing and implementation of policy, plan and standard regarding disaster risk reduction?
- How do men and women themselves consider women as agents for building peaceful community? If there is any gap in their perception, how can we fill the gap?



Participants

■ Moderator

Akiko Yamanaka Special Ambassador of Japan for the World Tsunami Awareness Day

■ Rapporteur

Melanne Verveer Executive Director of the Georgetown Institute for Women, Peace and Security

(USA)

Awut Deng Acuil Minister of Gender, Child and Social Welfare (South Sudan)

Amatalalim Ali Mohamed Al-Soswa Former Human Rights Minister (Yemen)

Hilary Amesika Gbedemah Rector of the Law Institute (Ghana)

Hiroko Hashimoto Principal of Jumonji High School, Japanese Representative to UN Commission

on the Status of Women

Yoko Hayashi Chairperson of the UN Committee on the Elimination of Discrimination against

Women

Jeanine Hennis-Plasschaert Minister of Defence (Netherlands)

Shinichi Kitaoka President, Japan International Cooperation Agency (JICA)

Mihoko Kumamoto Head, UNITAR Hiroshima Office

Anju Malhotra Principal Adviser, Gender and Development, UNICEF (USA)

Mara Marinaki EU/EEAS Principal Advisor on Gender and on UNSCR 1325 on Women, Peace

and Security

Motoo Noguchi Chair of the Board of Directors, the Trust Fund for Victims (TFV), International

Criminal Court

Marriet Schuurman NATO Secretary General's Special Representative for Woman, Peace and

Security (Netherlands)

スペシャル・セッション Special Sessions

- S-1 若者が作りたいジェンダー平等社会とは -現状と課題-
- S-1 Gender Equality from Youth Perspective -Current Situation and Challenge-
- S-2 地方からのイノベーション:女性が「真」に輝く社会とは?
- S-2 Innovation from Local Communities: Toward Society where Women "Truly" Shine

S-1 若者が作りたいジェンダー平等社会とは - 現状と課題-

企画・運営:公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン

現状・課題

2015年9月、国際社会は「持続可能な開発目標」(以下、SDGs)を採択。本年のWAW!はSDGsが採択されてから初の開催となる。SDGsでは、目指す世界像として、全ての女性と女児が完全なジェンダー平等を享受し、その能力強化を阻む法的、社会的、経済的な障害が取り除かれる世界を掲げ、ジェンダー平等の実現と女性・女児の能力強化は、全ての目標とターゲットにおける進展において死活的に重要な貢献をするものであると宣言している。しかし、世界で完全にジェンダー平等を達成した国は存在しない。途上国ではいまだに、女性や女児が教育や保健といった基本的人権へのアクセスが保障されていない。日本においても、世界経済フォーラムが公表した「グローバル・ジェンダー・ギャップ指数」(2016年度)において、144カ国中111位となっており、特に「政治」及び「経済」の分野において、ジェンダー平等に取り組む課題は山積している。

一方、ジェンダーの固定観念を覆し、男女の役割意識を変える取り組みも若者世代を中心に広がりつつある。今日の世界は、史上最大の若者世代を抱えており、目標達成のためには、未来を担う若者のエンパワーメントが欠かせない。世代によって変化する男女の役割意識をどのように捉え、若者が考えるジェンダー平等が実現したら、社会はどのように変わるのか。

本セッションでは、特にSDGsの目標 5 「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」にフォーカスを当て、目標達成のために、若者がどのようなアドボカシー活動(政策提言、啓発)を進め、また、どう意思決定に参画できるのか、実現の妨げとなっている課題についても認識し、解決のための議論を行う。様々なバックグラウンドや経験を持つ若者が集まり、グローバルの視点、若者ならではの革新的な視点を共有し、社会に示す。

論点

- SDGsの目標5の達成のために取り組んでいる活動にはどのようなものがあるか。また、課題は何か。
- 若者が考えるジェンダー平等社会とはどのようなものなのか。また、若者が考えるジェンダー平等社会を 実現するために、若者はどんな役割を担えるか。どう意思決定に参画し、ジェンダー平等に貢献できるか。



参加者の名前

■モデレーター

城谷 尚子 公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン国内プログラム

チームリーダー

■ラポラトゥール

淵上 貴史 創価大学国際教養学部三年生、ちゃぶ台返し女子メンバー

山本 朱音 上智大学法学部四年生

新居 日南恵 manma代表、慶應義塾大学法学部政治学科

大崎 一磨 G8&G20ユースサミット日本代表、上智大学国際教養学部国際教養学

科四年生

竹下 奈都子 BONDプロジェクト、広報担当

戸谷 知尋 公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパンユース・グループ

G-SChooL副代表、慶應義塾大学三年生



S-1 Gender Equality from Youth Perspective - Current Situation and Challenge-

This session is organized by PLAN INTERNATIONAL JAPAN

Current Situation and Issues

International society adopted the "Sustainable Development Goals" (SDGs) in September 2015. This is the first WAW! since the SDGs have been adopted. The SDGs advocate a world where every woman and girl enjoys full gender equality and all legal, social and economic barriers against their empowerment are abolished. The SDGs also declare that gender equality and the empowerment of women and girls will make an indispensable contribution to progress across all the Goals and Targets. However, there is no country that has achieved full gender equality yet. In developing countries, women and girls are not always guaranteed their access to basic human rights such as education and health. In the annual global gender gap report published by the World Economic Forum this year, Japan ranked 111 out of 144 countries in 2016. It means Japan is facing significant challenges against gender equality, especially in the field of politics and economy.

On the other hand, it is true that efforts to eradicate gender stereotyping and to change mindset about gender roles are more widely shared, especially among young people. As the today's world holds the largest generation of young people in history, empowerment of young people who are responsible for the future is essential for the goal of achieving gender equality. How should we understand the variation of gender roles among generations? How would the society look like once gender equality which the young people perceive comes true?

In this session, we will focus especially on SDG Goal 5 "Achieve gender equality and empower all women and girls" and discuss about barriers against realization for the following challenges and their possible solutions: how young people could advance advocacy activities such as policy recommendation and awareness raising and how they could get involved in decision making in order to achieve the Goal. We will also discuss the obstacles in the way of implementation. Young people with various backgrounds and experiences will get together in this session to share their unique and innovative perspectives and to show them to the rest of the world.

Issues to Be Discussed

- What actions are the young people actively taking in order to achieve SDG Goal 5? And what are challenges?
- How do the young people define a gender-equal society? What kinds of roles can the young people play in decision-making process and how can they contribute to achieve gender equality?



Participants

■ Moderator

Naoko Shiroya Youth Advocate for Change Team Leader, Plan International Japan

■ Rapporteur

Takashi Fuchigami Student of Soka University of Japan, Member of Chabudai-gaeshi Girls

Akane Yamamoto Student of Sophia University, Faculty of Law

Hinae Niori Head of manma, Political Science Student of Keio University

Kazuma Osaki President at G8&G20 Youth Summits Japan, Senior Student of Sophia University,

Faculty of Liberal Arts

Natsuko Takeshita Communication officer, BOND project

Chihiro Toya Vice President of Youth Group G-SchooL, Plan International,

Student of Keio University

S-2 地方からのイノベーション:女性が「真」に輝く社会とは?

企画・運営:特定非営利活動法人 Gender Action Platform

協力:特定非営利活動法人ジェン (JEN)

現状・課題

ジェンダー平等と女性・女児のエンパワーメント(SDGの目標5)を推進するにあたっては、都市部と地方・農山漁村の格差が開かないように配慮することが重要であり、その認識は国際的に共有されている。地方・農山漁村では、女性や女児の保健医療サービスや教育へのアクセス、雇用機会、生計手段の選択肢、金融サービスを含む経済資源へのアクセス、意思決定への参画の度合いなどが都市部に比べて限られていることが多い。したがって、すべての女性たちが「真に」輝く社会を創るためには、地方・農山漁村特有の障壁・課題を抽出して解決策を講じることと、女性が主体的に参画できるような地域社会を創ることが必要である。

途上国の開発支援においては、公正という観点に加え、女性のエンパワーメントへの投資が地域の持続的な社会・経済発展に繋がるという観点から、農山漁村開発におけるジェンダー主流化と農村部の女性・女児のニーズに特化したエンパワーメント支援が実施され、ノウハウが蓄積されてきた。

日本においても、政府による女性活躍推進の取組を地方に確実に広げていくことが喫緊の課題である。また、地方の人口減少と少子高齢化に歯止めをかけることを目的とした地方創生においても、特に若い女性が生きやすく、働きやすく、暮らしやすい地域社会を構築していくことの重要性が認識され始めている。

地方・農山漁村において、女性のエンパワーメントと女性の活躍を推進していくためには、地域社会に根強く残っている規範やそれに基づく社会構造を明らかにし、それらの障壁をどのように取り除いていくかを議論する必要がある。

論点

- 地方・農山漁村において、女性のエンパワーメント/女性の活躍を阻んでいる要因・障壁は何か。
- 開発、紛争、災害といった外的要因や人口移動・超少子高齢化といった人口動態の急激な変化がきっかけ となって、女性の経済的・社会的・政治的エンパワーメントを進めた、もしくは進めている地域の女性た ちの経験と取組み事例にはどのようなものがあるか。
- 地域社会の規範・社会構造を変革し、女性が「真に」輝く地域社会を創るために必要な要素・条件・効果 的な方策は何か。



参加者の名前

■司会

大崎 麻子 関西学院大学客員教授

■モデレーター/ラポラトゥール

目黒 依子 上智大学名誉教授

千葉 千優 札幌市男女共同参画センター事業係指導員 石本 めぐみ 特定非営利活動法人ウィメンズアイ代表理事

清田 真由美 春日クリニック院長

 太田 彩子
 一般社団法人 営業部女子課の会代表理事

 バンカー・ロイ
 ベアフット・カレッジ創立者 (インド)

 須永 珠代
 株式会社トラストバンク代表取締役



S-2 Innovation from Local Communities: Toward Society where Women "Truly" Shine

This session is organized by Gender Action Platform In cooperation with JEN

Current Situation and Issues

In promoting gender equality and empowerment of women and girls (SDGs Goal 5), there is a globally shared recognition of importance that the gap between rural and urban areas should not be widened. It is due to the fact that women and girls in rural areas have greater confinement in their access to health/medical services, education, and economic resources including employment opportunities, the means of livelihood, financing services, and on the degree of participation in decision-making when compared with their counterpart in urban areas. Thus, in order to create a society where all women 'truly' shine, it is essential to identify and solve the challenges and barriers particular to rural areas, and to build rural community where women can participate as major actors.

There has been a considerable accumulation of experience and expertise in international development assistance focusing on promoting gender mainstreaming in the rural development of developing countries. Such assistance is with the view that investing in women's empowerment not only contributes to social justice but also leads to sustainable socio-economic development.

It is also an urgent agenda for Japan to steadily implement policies to promote women's active participation throughout the country. Moreover, it is more widely recognized the importance of building local communities where young women can live and work more comfortably, when working on regional vitalization that aims at addressing the declining and rapid aging of the population amid extremely low birth rates. In order to promote the empowerment and active role of women in rural areas, it is necessary to identify traditional norms taking root in those areas and social structures and discuss how to remove those barriers.

Issues to Be Discussed

- What are the causes and barriers preventing rural women from their active participation in all sectors of society?
- What are good practices in promoting women's economic, social and political empowerment as results of external
 impacts, such as development, conflicts and/or natural disasters, and radical demographic changes such as migration
 and rapid aging of the population amid extremely low birth rates?
- What are the conditions and effective measures necessary for changing social norms and structures in local communities in order to create a society where women 'truly' shine?



Participants

■ MC

Asako Osaki Visiting Professor, Kwansei Gakuin University

■ Moderator / Rapporteur

Yoriko Meguro Professor Emeritus of Sophia University, Tokyo

Chihiro Chiba Instructor at Sapporo Center for Gender Equality

Megumi Ishimoto Executive Director, NPO Women's Eye

Mayumi Kiyota Director, Kasuga Clinic

Ayako Ohta Leader/Founder of Association of Sales Department Girls Section

Bunker Roy Founder and Director, Barefoot College (India)

Tamayo Sunaga President, TRUSTBANK, Inc.

略歴

Curriculum Vitae

(1) 日本政府要人 / Representatives from the Government of Japan



安倍 昭恵 内閣総理大臣夫人 **Akie Abe** Spouse of Prime Minister, Shinzo Abe 日本 Japan

聖心専門学校卒業後、電通勤務を経て、安倍晋三氏と結婚。2011年立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科修了。ミャンマーでの学校(寺子屋)づくりをはじめ社会活動に取り組み、さらに活動の幅を広げ、教育、女性、国際交流などの現場に積極的に飛び込んでいる。下関市で米作りを行うなど、食への取り組みにも力を注ぐ。

After working in DENTSU INC, she married to Mr. Shinzo Abe. She has been engaging herself in social activities such as school construction (Terakoya) in Myanmar. She expanded her activities and is devoting herself with strong will to the field of education, women, international exchanges, and agriculture/food security.



岸田 文雄 外務大臣 **Fumio Kishida** Minister for Foreign Affairs 日本 Japan

昭和57年、早稲田大学卒業後、株式会社日本長期信用銀行入社。衆議院議員秘書を経て、平成5年、 衆議院議員選挙に初当選し、現在まで8回当選。建設政務次官、文部科学副大臣、内閣府特命担 当大臣、消費者行政推進担当大臣、宇宙開発担当大臣等を歴任し、平成24年より現職。

After graduated from Waseda University, he joined Long-Term Credit Bank of Japan, Ltd. In 1993, he was elected to the House of Representatives for the first time (elected eight times as of present), after working as a secretary to a member of the House of Representatives. He served as Parliamentary Vice-Minister for Construction, Parliamentary Senior Vice-Minister for Education, Culture, Sports, Science and Technology, Minister of State for Special Missions, Minister for Consumer Affairs and Minister for Space Policy respectively. In 2012, he has assumed the position of Minister for Foreign Affairs.



加藤 勝信 一億総活躍担当大臣 働き方改革担当大臣 女性活躍担当大臣 内閣府特命担当大臣 (男女共同参画) (2015 年より)

Katsunobu Kato Minister for Promoting Dynamic Engagement of All Citizens

Minister for Working-style Reform

Minister in charge of Women's Empowerment Minister of State for Gender Equality (since 2015)

日本 Japan

1979年 東京大学卒業, 大蔵省入省

2007年 内閣府大臣政務官(安倍改造内閣)

2012年 内閣官房副長官2014年 内閣人事局長(兼任)

1979 Graduated from the University of Tokyo, entered the Ministry of Finance

2007 Parliamentary Secretary, Cabinet office

2012 Deputy Chief Cabinet Secretary

2014 Head of Cabinet Bureau of Personnel Affairs





萩生田 光一 内閣官房副長官 **Koichi Hagiuda** Deputy Chief Cabinet Secretary
日本 Japan

八王子市議、東京都議を経て、2003年に衆議院議員初当選。現在4期目。2008年に文部科学大臣政務官を務めるなど、スポーツ・子育て・教育問題に造詣が深い。2014年に安倍総理の側近として自民党総裁特別補佐に指名され、2015年の内閣改造で内閣官房副長官及び内閣人事局長に就任。1男1女の父。WAW!の成功に向けWAW!チーム長として政府横断的な取り組みを後押しするとともに、内閣人事局長として女性が輝ける霞が関改革を進める。

He was a member of Hachioji City Assembly and Tokyo Metropolitan Assembly, before elected to the House of Representatives in 2003. He is now serving his fourth term. He has a great knowledge on sports, child-raising and education issues and served as Parliamentary Vice-Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology in 2008. He was appointed to a special assistant to President of the Liberal Democratic Party as a close aide of Prime Minister Abe in 2014, and assumed Deputy Chief Cabinet Secretary and Chief Cabinet Bureau of Personnel Affairs in 2015. He is a father of a son and a daughter. As the Chief of WAW! Team, he encourages cross-sectional efforts across ministries for successful WAW! while bringing about reform of government employees so women can shine.



野上 浩太郎 内閣官房副長官 **Kotaro Nogami** Deputy Chief Cabinet Secretary 日本 Japan

平成4年、慶應義塾大学を卒業後、三井不動産に入社。主に地域活性化のための街づくりに取り組む。平成11年、富山県議会議員に初当選。平成13年に参議院議員に初当選。平成28年より内閣官房副長官。

After graduated from Keio University in 1992, he joined Mitsui Fudosan, where he put effort into town planning with a particular focus on regional development. He was elected to Toyama Prefectural Assembly in 1999. He was elected to the House of Councillors in 2001. He has been serving as Deputy Chief Cabinet Secretary since 2016.

(2) 参加者 / Participants



キャサリン・アダムス ハネウェル 上級副社長 **Katherine L. Adams** Senior Vice President & General Counsel for Honeywell
アメリカ USA

エネルギー使用の効率化・クリーンエネルギーの創出・安全性の確保・グローバル化・生産性の 向上など、世界が直面する困難な課題の解決に貢献する製品や技術の開発に取り組むハネウェル 社において、法務・政府渉外・環境・製品管理・グローバルセキュリティなど8部門を統括。

Senior Vice President and General Counsel for Honeywell that invents and manufactures technologies to address some of the world's toughest challenges linked to global macro trends such as energy efficiency, clean energy generation, safety and security, globalization, and customer productivity. She manages the Law Department; Government Relations; Health, Safety, Environment, Product Stewardship, and Sustainability; and Global Security.



アンネ・ビルギッテ・アルブレクトセン プラン・インターナショナル 最高経営責任者 **Anne-Birgitte Albrectsen** Chief Executive Officer, Plan International デンマーク Denmark

デンマーク外務省事務次官、国連人口基金事務局次長などを歴任し、2015年9月より現職。開発と外交の広範な実務経験と専門性を活かして、子どもの権利の促進とジェンダー平等の実現を推進する国際NGOプラン・インターナショナルを率いる。

CEO of Plan International, the development and humanitarian organisation that advances children's rights and equality for girls. A Danish citizen, she has enjoyed an extensive career as a diplomat and development professional. Previously she was Deputy Executive Director at the UN Population Fund and Under Secretary for Management in the Danish Foreign Ministry Affairs.



アマト・アル・アリム・スースワ 元イエメン人権大臣 **Amatalalim Ali Mohamed Al-Soswa** Former Human Rights Minister イエメン Yemen

11歳でイエメン女性として初めてラジオ番組をホスト、同国の大臣、次官、大使の要職を歴任。 2006年に国連事務次長補兼UNDP総裁補兼UNDPアラブ諸国局長、2014年にはイエメン政府「援 助吸収促進事務局」総裁に就任し、現職は世界銀行中東・北アフリカ地域ジェンダー問題顧問。

First female radio host at age eleven. Deputy-Minister, Ambassador and Minister in Yemen. Assistant Secretary General, UNDP Assistant Administrator, and Regional Director of the Arab States Bureau. Managing director of the Executive Bureau in Yemen. Currently a consultant on gender in MENA region for the World Bank.



リュ**ドミラ・アントノフスカヤ** ポリマスター・ホールディング 社長 (オーストリア) / ポリマスター社 CEO (USA)

Liudmila Antonauskaya Director of Polimaster Holding GmbH (Austria) / Chief Executive Officer at Polimaster Inc. (USA)

ベラルーシ Belarus

ベラルーシ国立工科大学卒業後、父の設立したベラルーシの放射線測定器メーカー「ポリマスター」に入社。2006年に経営権を譲り受けて同社を急成長させ、日本をはじめリトアニア、オーストリア、米国に同社の支店が開設された。2015年、ベラルーシで成功している女性トップ10の第1位となった。

After graduating from Belarusian National Technical University, she started to work at the company "Polimaster", which was producing radiation detectors and was established by her father. In 2006 she took over the company and accelerated its growth, and its branches have been established in Japan, Lithuania, Austria and USA. In 2015 she became number 1 in the TOP-10 successful women in Belarus.





青野 慶久 サイボウズ株式会社 代表取締役社長 Yoshihisa Aono President, Cybozu Inc.

日本 Japan

大阪大学工学部情報システム工学科卒業後、松下電工(現 パナソニック)を経て、1997年8月愛媛県松山市でサイボウズ設立。2005年4月代表取締役社長に就任。社内のワークスタイル変革を推進し離職率を6分の1に低減。3児の父として3度の育児休暇を取得。

Received B.S. in Information System Technology from Osaka University. Founded Cybozu in Matsuyama-shi, Ehime Pref. in August 1997, after working several years at Matsushita Electric Industrial Co., Ltd., now known as Panasonic. He became the company president in April 2005 and conducted work style reforms which led to a drastic decrease in employee turnover rate. He took childcare leave three times as a father of three children.



アウット・デン・アチュイル ジェンダー・児童・社会福祉大臣 **Awut Deng Acuil** Minister of Gender, Child and Social Welfare

南スーダン South Sudan

「スーダン・カトリック地方協議会」及び「平和のためのスーダン女性の声」の共同創設者。南部スーダン時代より平和や女性に関する活動に尽力してきた功績から、国際人道賞(2002年)を始め、人権・人道分野で様々な賞を受賞している。

The co-founder of the Sudanese Catholic Bishops Regional Conference and Sudanese Women's Voice for Peace. She has received a number of international awards, such as the Inter Action Humanitarian Peace Award, for the efforts to build peace and advance women's rights in southern Sudan and South Sudan.



千葉 千優 札幌市男女共同参画センター 事業係 指導員

Chihiro Chiba Instructor at Sapporo center for gender equality

日本 Japan

藤女子大学文学部卒業後、2015年より札幌市男女共同参画センターに勤務。若年層を対象とした男女共同参画啓発事業を担当し、これまでにLINEを活用した「ガールズ相談」、性別に捉われない進路選択を考える「就活女子講座」などを実施。

After graduating from Fuji Women's University, she started working for Sapporo center for gender equality in 2015. She is responsible for educational activities for gender equality targeting young adult, and has managed consulting for girls using LINE and gave lectures on plans without gender-based prejudice.



ヘレン・クラーク 国連開発計画 総裁

Helen Clark Administrator, UNDP

ニュージーランド New Zealand

2009年4月に女性として初めて、UNDPの総裁に就任。また、開発問題に取り組む全ての国連基金、プログラム、部門の責任者で構成される委員会「国連開発グループ (UNDG)」の議長を兼務。UNDP総裁に就任する前は、1999年から2008年までの3期、ニュージーランド首相を務めた。

Became the Administrator of the UNDP in 2009, and is the first woman to lead the organization. She is also the Chair of the United Nations Development Group. Prior to her appointment with UNDP, she served for nine years as Prime Minister of New Zealand, serving three successive terms from 1999-2008.



ドルジ・チョデン 公共事業居住大臣 / 女性・子供のための国家委員会 会長

Dorji Choden Minister for Ministry of Works and Human Settlement / Chairperson of National Commission for Women and Children

ブータン Bhutan

インド・ビルラ技術大学・土木工学学士、米国シラキューズ大学行政修士。ブータン初の女性大臣かつ女性エンジニアとして、女性に対する専門職及び新役割を擁護。2016年、第5代ブータン国王陛下より「Dasho」爵位を授与。ブータンの国連機関等にてジェンダー・コンサルタントの経験。

Received B.E. Civil Engineering from Birla Institute of Technology, India and M.A. Public Administration from Syracuse University, USA. As the first female Minister and the first female engineer, she advocats for new roles and professional standing for women in Bhutan. She received "Dasho" title from 5th King of Bhutan in 2016. She worked as gender consultant for UN agencies and others in Bhutan.



ステファニー・フォスター 米国務省グローバル女性課題室 シニア・アドバイザー / 参事官 **Stephenie Foster** Senior Advisor; Counselor, Secretary's Office of Global Women's Issues, US Department of State

アメリカ USA

前職の在アフガニスタン米国大使館では女性と市民社会の課題に重点的に取り組む。民間の弁護 士、連邦議会議員の首席補佐官、NPOでの上級管理職を経験。女性と政治に関する著作がある。

Previously served at the US Embassy in Kabul, Afghanistan where she focused on women and civil society. She has worked in private law practice, as a Chief of Staff on Capitol Hill, and in senior management positions in the non-profit sector. She has published extensively on women and politics.



アビゲール・フリードマン ウィステリアグループ設立者・CEO / アジア財団上級顧問 **Abigail Friedman** Founder & CEO of The Wisteria Group / Senior Advisor to The Asia Foundation アメリカ USA

女性の経済的エンパワーメント促進に重点を置く国際的助言企業、ウィステリアグループの設立者・CEO。25年に及ぶ米国外交官および国家安全保障局アフガニスタン担当課長としてのキャリアを有する。アジア財団では、女性担当チームへの助言や日本との戦略的な関係構築について助言。

Founder and CEO of The Wisteria Group, an international advisory firm dedicated to expanding the global presence and effectiveness of non-profit and business clients with focus on advancing women's economic empowerment globally. She brings over twenty-five years of experience as a U.S. diplomat and as White House National Security Council Director for Afghanistan. As Senior Advisor to The Asia Foundation, she supports the women's empowerment team and provides strategic direction on Japan engagement.



淵上 貴史 創価大学国際教養学部3年生 / ちゃぶ台返し女子メンバー

Takashi Fuchigami Student of Soka University of Japan / a member of Chabudai-gaeshi girls 日本 Japan

創価大学国際教養学部、学内で国際連合研究会に所属。国連本部の訪問を機にジェンダー平等に 関心を持ち、政治哲学としてフェミニズムを研究。2016年8月より「ちゃぶ台返し女子」にて性 暴力に関する刑法改正キャンペーンを運営。

Belongs to the Faculty of International Liberal Arts at Soka University of Japan. A vice president of the United Nations study club. He became curious about gender equality due to a visit to UN headquaters and Studies feminism as political philosophy. In August 2016, he joined the campaign for penal reform about sexual abuse in Japan as a member of "Chabudai-gaeshi girls".





ヒラリー・アメシカ・グベデマ 法律研究所 所長 **Hilary Amesika Gbedemah** Rector of the Law Institute ガーナ Ghana

ジョージタウン大学で法学修士号取得。39年の法学経験を有する弁護士。2013年から国連女子差別撤廃委員会の委員を務め、フォローアップ報告担当代理を務める。ガーナで最初の職業法学訓練機関である法学研究所の所長も務めている。

Received Master of Laws from Georgetown University, Washington D.C. She is a Lawyer with thirty-nine years' legal experience. She joined the United Nations Committee on Elimination of All Forms of Descrimination against Women (CEDAW) in 2013 and she has been appointed to the position of Alternate Follow-up Rapporteur. She is currently the Rector of Ghana's premier vocational law training institute, the Law Institute.



モンセラ・ゴメンディオ OECD 教育・スキル局 次長 **Montserrat Gomendio** Deputy Director for the Directorate for Education and Skills, OECD
スペイン Spain

2012年から2015年までスペイン教育・職業訓練・大学担当国務大臣を務めた。1991年から、スペイン研究審議会(CSIC)において研究教授を務めた。1997年に、自然史博物館の館長に任命され、2003年から2004年まで、CSICの組織・制度関係担当副総長を務めた。英国ケンブリッジ大学でPhD(行動生態学専攻)取得。

Secretary of State for Education, Vocational Training and Universities in Spain from 2012 to 2015. She worked as a Research Professor at the Spanish Research Council (CSIC) from 1991. In 1997 she was appointed Director of the Natural History Museum and from 2003 to 2004 served as Vice-President for Organisation and Institutional Relations. She holds a PhD in Behavioural Ecology from the University of Cambridge (U.K.).



アランチャ・ゴンザレス 国際貿易センター(ITC) 事務局長 **Arancha González** Executive Director, International Trade Centre (ITC) スペイン Spain

2013年より現職。2005年から2013年にかけてラミー前世界貿易機関事務局長の官房長としてWTO における貿易のための援助(AfT)の立ち上げに従事。欧州委員会では貿易担当報道官を務めた。女性の経済的エンパワメントを目的としたShetradesイニシアティブの責任者。

Executive Director of the International Trade Centre (ITC) since 2013. She served as Chief of Staff to the World Trade Organization (WTO) under the direction of Director-General Pascal Lamy from 2005 to 2013 and was EU spokesperson on trade. She is responsible for launching ITC's global Shetrades initiative on women's economic empowerment.



レベッカ・K・グリーン イー・アール・エム日本株式会社 主席コンサルタント **Rebecca K Green** Principal Consultant, ERM Japan アメリカ USA

イー・アール・エム日本主席コンサルタント及び電力部門のトップ。在日米国商工会議所理事会 メンバー。再生可能エネルギー、大規模インフラ開発、エネルギー効率化、持続可能なデザイン、 規制監視等を含む電力投資に係わる国際的な環境プロジェクトを担当。化学工学の学位保持。

A Principal Consultant and power sector lead at ERM Japan and a member of the ACCJ's (American Chamber of Commerce in Japan) Board of Governors. In her current position at ERM, she works on environmental international projects related to power investment including renewables, large-scale infrastructure development, energy efficiency, sustainable design and regulatory monitoring. She holds a degree in chemical engineering.



橋本 ヒロ子 十文字中学・高校 校長 **Hiroko Hashimoto** Principal of Jumonji High School 日本 Japan

国立女性教育会館情報交流課長、UNESCAP社会問題担当官、十文字女子大学教授、同副学長を経て2013年より校長。2011年より国連女性の地位委員会日本代表。

Director of Library and International Exchange Division, National Women's Education Center of Japan, Social Affairs Officer at UNESCAP in Charge of Gender and Development (GAD), Professor of Gender Studies and Vice President of Jumonji University. From 2011, Japanese Representative to UN Commission on the Status of Women.



林 文子 横浜市長 Fumiko Hayashi Mayor of Yokohama 日本 Japan

BMW東京㈱代表取締役社長、㈱ダイエー代表取締役会長兼CEO、日産自動車㈱執行役員等を経て、2009年に横浜市長就任。現在2期目。横浜市初の女性市長として、保育所待機児童対策、起業支援、ネットワークづくりなど、女性の活躍支援に力を注いでいる。

Mayor of Yokohama since 2009. Her previous roles include president of BMW Tokyo, chairperson and CEO of Daiei, and executive officer of Nissan Motors. As the first female mayor of Yokohama, she is committed to women's empowerment projects such as the abolition of waiting list for nurseries, as well as support for female entrepreneurship and networking.



林 陽子 国連女子差別撤廃委員会 委員長
Yoko Hayashi Chairperson of the UN Committee on the Elimination of Discrimination against Women
日本 Japan

早稲田大学法学部卒(法学士)。アテナ法律事務所弁護士。2008年より国連女子差別撤廃委員会委員、2015年より同委員長。

Studied law at Waseda University in Japan (LL.B) and currently belongs to Athena Law Office in Tokyo. She has been a member of the UN Committee on the Elimination of Discrimination against Women (CEDAW) since 2008, and a chairperson of CEDAW since 2015.







J.A. ヘニス・プラスハート 国防大臣 **Jeanine Hennis-Plasschaert** Minister of Defence
オランダ Netherlands

2004から2010年までオランダ自由民主国民党の欧州議会議員を務め、運輸委員会、市民的自由・司法・内務委員会に所属。2010年にオランダ自由民主国民党下院議員となり、安全保障、警察、均等待遇、災害や危機対応に重点的に取り組む。2012年にオランダ国防大臣に就任。

From 2004 to 2010, she was a Member of the European Parliament for the VVD (People's Party for Freedom and Democracy). As an MEP, she was a member of the Committee on Transport and the Committee on Civil Liberties, Justice and Home Affairs. In 2010, she became a Member of the Dutch House of Representatives for the VVD, focusing on security, police and equal treatment as well as disaster and crisis response. In 2012, she was appointed Minister of Defence.



スーザン・ハーバート メルク 上級副社長

Susan Herbert Executive Vice President, Global Head, Marketing and Strategy of Merck KGaA イギリス UK

メルク社において戦略立案、ポートフォリオ・マネージメント、製品のブランディング、デジタル・ストラテジー、マーケティング・エクセレンス等を統括するマーケティング及び事業戦略のグローバル責任者。マンチェスター大学医学部にて博士号を取得。

Currently Global Head of Marketing and Strategy Operations at Merck. In this role, she has overall accountability for Strategic Planning and Portfolio Management, Marketing Excellence including Brand Planning, launch excellence, launch planning and the Digital Strategy and Excellence for Healthcare. She graduated from the University of Manchester, UK, with a Doctorate degree from the Faculty of Medicine.



アイリーン・ヒラノ・イノウエ 米日カウンシル 会長 **Irene Hirano Inouye** President, U.S.-Japan Council

アメリカ USA

米日カウンシル会長。TOMODACHIイニシアチブも運営する。全米日系人博物館の創設に携わり、 20年以上館長を務めた。南カリフォルニア大学で公共行政学修士号、南メソジスト大学から名誉 博士号を取得。非営利団体の運営、コミュニティ教育等、幅広い分野における経験に富む。

Currently President of the U.S.-Japan Council, where she oversees the organization and administers the TOMODACHI Initiative. She is the former President and founding CEO of the Japanese American National Museum, a position she held for twenty years. She received her master's degrees in Public Administration from the University of Southern California, and an honorary doctorate degree from SMU. She has extensive experience in non-profit administration, community education and public affairs with culturally diverse communities nationwide.



本田 哲也 ブルーカレント・ジャパン株式会社 代表取締役社長 **Tetsuya Honda** Managing Director/ CEO, BlueCurrent Japan Inc.

日本 Japan

1999年フライシュマン・ヒラード入社。2006年ブルーカレント・ジャパンを設立。2009年に『戦略PR』を上梓、広告業界にPRブームを巻き起こす。戦略PRの著作、講演実績多数。Jリーグマーケティング委員。世界的な業界誌PRWeek「PR Professional of the Year 2015」受賞。

Joined Fleishman Hillard in 1999. He launched BlueCurrent Japan as a sister agency in 2006. He published a book "Strategic PR" in 2009 and is a frequent speaker on marketing and PR innovation and an author of several popular business books. He was recently named "PR Professional of the Year 2015" by PRWeek.



細川 稀叶 一般社団法人ウーマン・イノベーション協会 代表理事 / 株式会社ニリアバニー 代表 取締役社長

Maki Hosokawa Representative Director, Association of Woman Innovation / CEO, Nilliabunny Co., Ltd. 日本 Japam

一流講師を集結し習い事を一箇所でできるスーパー学童、及び保育園を企画・運営。「女性の活躍で社会を変える」ために必要な女性の意識改革を行うため、2014年に、新しい時代の女性の生き方を支援する100万人女性支援団体「ウーマン・イノベーション協会」を設立。

Planning and management of premium After School Care Programs and nursery schools gathering firstclass teachers in one place. In 2014, in order to reform women's awareness to "change society through success of women", she founded the "Association of Women's Innovation", a one million women support group that supports women living in new era.



許 文明 東亜日報 論説委員

Huh Mun-Myung Editorial Writer, DONG-A ILBO

韓国 Republic of Korea

東亜日報にて、オピニオンチーム長、国際部長を経て、現在論説委員を務める。優れたジャーナ リストとして、サムソン言論賞、徐載弼(ソ・ジェピル)言論賞、日韓文化交流基金賞等を受賞。

Director of the Opinion Team, Editor of the Foreign Desk, Editorial Writer (present post) at the DONG-A ILBO. She received awards as a leading journalist, "Samsung Journalism Awards", "Philip Jaisohn Journalism Awards", and "The Japan-Korea Cultural Foundation Awards".



伊調 馨 リオオリンピック レスリング金メダリスト

Kaori Icho Rio Olympic wrestling gold medalist

日本 Japan

リオデジャネイロまでのオリンピック4大会にて連続で金メダルを獲得し、女子選手として世界初の個人種目4連覇を達成。世界選手権10大会で優勝。紫綬褒章を4度受賞し、2016年10月には国民栄誉賞を受賞。所属はALSOK。

Won gold medals in four straight Olympics in 2004, 2008, 2012 and 2016, and became the first woman to win an individual gold medal at four consecutive Olympics. She won ten-times at World Champion. Recipients of the 4 Medals with Purple Ribbon from the Emperor of Japan. In October 2016, she was awarded the People's Honor Award. She affiliates with ALSOK.



石井 澄江 公益財団法人ジョイセフ 代表理事・理事長

Sumie Ishii Chairperson, Japanese Organization for International Cooperation in Family Planning (JOICFP) 日本 Japan

1975年に公益財団法人ジョイセフに入団。以来、世界の女性や女児の健康、特に母子保健、セクシュアル・リプロダクティブヘルス/ライツ推進事業をアジアやアフリカ地域で実施。現在はグローバルヘルスに関する政策提言に中心的な役割を果たしている。

Since joining JOICFP in 1975, she has strived for better health, particularly for maternal, newborn and child health as well as the sexual and reproductive health and rights of women and girls worldwide. Implementing programs in the regions of Asia and Africa, she is a strong advocate for sexual and reproductive health and rights and a leader of advocacy on gender equality.





石本 めぐみ 特定非営利活動法人ウィメンズアイ 代表理事 **Megumi Ishimoto** Executive Director, NPO Women's Eye 日本 Japan

東京大学で修士号(人間の安全保障)取得、博士課程在学中。外資系金融会社で10年の勤務を経て、東日本大震災後に宮城県三陸沿岸の避難所、仮設住宅での女性支援に携わる。2011年6月にNPOを起ち上げ女性が直面する課題に地元女性と取り組む。

PhD. Candidate and received M.A. in human security from the University of Tokyo. She worked in international finance for 10 years. After the Great East Japan Earthquake, she is involved in support activities for women along the Sanriku Coast. In June 2011, she founded a NPO and continues to work alongside local women in tackling the problems faced by women.



伊東 正仁 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 取締役 常務執行役員
Shoji Ito Director, Managing Executive Officer, Sompo Japan Nipponkoa Insurance Inc. 日本 Japan

2015年4月より現職。SOMPOホールディングス株式会社ではダイバーシティ推進本部長も務める。 1984年京都大学を卒業後、日本火災海上(現 損害保険ジャパン日本興亜)に入社。経営企画部、 CSR部、営業など本社・営業での幅広い分野の経歴を持つ。

Graduated from Kyoto University and joined Nippon Fire & Marine Insurance (currently Sompo Japan Nipponkoa Insurance) in 1984. He has been Director and Managing Executive Officer of Sompo Japan Nipponkoa Insurance and General Manager, Diversity Promotion Headquarters of Sompo Holdings since 2015. He has broad experience in various fields such as corporate planning, corporate social responsibility and sales.



治部 れんげ 昭和女子大学現代ビジネス研究所 研究員 Renge Jibu Visiting researcher, Showa Women's University 日本 Japan

ー橋大学法学部卒業後、経済誌の記者を務める。米ミシガン大学フルブライト客員研究員として 共働き夫婦について研究を行う。女性と労働、男性の家庭参加、子育て支援政策に関する寄稿や 講演多数。東京都男女平等参画審議会委員、WAW!国内アドバイザー。

Worked as a journalist for magazines after graduating from Hitotsubashi University. She conducted research about dual career couples in the U.S. as Fulbright Visiting Scholar at University of Michigan. Writing and giving talks about working women, men's participation at home and childcare support policies. A committee member of Gender Equality at Tokyo Metropolitan Government and Advisor for WAW!.



神戸 洋美 愛知県議会議員 **Hiromi Kambe** Member of Aichi Prefectural Assembly 日本 Japan

名古屋女子大学児童学科卒業。私立幼稚園園長を務めながら、2003年より愛知県議会議員として、 自らの体験をもとに少子化対策と女性に関する様々な問題(ワークライフバランス、DV対策、そ の他)に取り組んでいる。

Graduated from Nagoya Women's University with a bachelor of Childhood Education. She became the principal of a private kindergarten in 1989, and from 2003 has also been a member of the Aichi Prefectural Assembly. Since becoming a member of the Assembly, she has worked on countermeasures to the falling birth rate, reducing domestic violence and improving work life balance.



カミナ・ジョンソン=スミス 外務・貿易大臣 **Kamine Johnson Smith** Minister of Foreign Affairs and Foreign Trade ジャマイカ Jamaica

ロンドン・スクール・オブ・エコノミックス(LSE)で修士号(法学)取得。弁護士の資格を有し、通信会社ケーブル・アンド・ワイヤレスで法律顧問を務め、2009年に上院議員に選出される(現在 2 期目)。2016年 3 月にジャマイカ外務・貿易大臣に就任。

Received M.A in Law from London School of Economics and Political Science. She is an Attorney-at-Law and served as Head of Corporate Affairs and Projects (Legal) of Cable & Wireless Jamaica Limited for several years. She has served as a Senator since 2009, and in March 2016, she was appointed Minister of Foreign Affairs and Foreign Trade of Jamaica.



北岡 伸 独立行政法人 国際協力機構 理事長 **Shinichi Kitaoka** President, Japan International Cooperation Agency (JICA)
日本 Japan

東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了(法学博士)。東大法学部教授、特命全権大使(日本政府国連代表部次席代表)、国際大学学長を経て2015年10月より現職。東大名誉教授。専門は、「日本政治外交史」。2011年紫綬褒章受章。

Received Ph.D from University of Tokyo. Professor of Graduate Schools for Law and Politics, the University of Tokyo (1999-2004, 2006-2012), Deputy Permanent Representative of Japan to the United Nations (2004-2006), President of the International University of Japan (2013-2015). His specialty is modern Japanese politics and diplomacy. He received the Medal with Purple Ribbon for his academic achievements in 2011.



清田 真由美 春日クリニック 院長 **Mayumi Kiyota** Director, Kasuga Clinic
日本 Japan

熊本大学医学部卒業。1992年に春日クリニックを開業。院長。かかりつけ医として、地域の要である更年期女性を支えるために1999年より"老後、介護、最期"を学ぶ「おりひめの会」を主宰。 2003年に女性専用外来開設。性差医学医療学会評議員。女性医学学会専門医。

Graduated from the Kumamoto University, Faculty of Medicine. She started Kasuga Clinic in 1992, and started organizing "Orihime-no-kai", a group to learn old age, elderly care and the final moment to support women at menopause in 1999. She started women only outpatient department in 2003. Member of the Japanese Association for Gender-Specific Medicine and the Japan Society for Menopause and Women's Health.



小池 百合子 東京都知事
Yuriko Koike Governor of Tokyo
日本 Japan

カイロ大学文学部社会学科卒業。参議院議員を経て衆議院議員に当選。環境大臣、内閣府特命担当大臣 (沖縄及び北方対策)、内閣総理大臣補佐官 (国家安全保障問題担当)、防衛大臣、自民党総務会長などを歴任。平成28年7月、東京都知事に当選。

Received a BA in Sociology from Cairo University. She was elected to the House of Representatives after the House of Councillors, and served as Minister of the Environment, Minister of State for Okinawa and North Territories Affairs, Special Advisor to the Prime Minister for National Security Affairs, Minister of Defense, and Chairperson, General Council, Liberal Democratic Party. In July 2016, she was elected Governor of Tokyo.





小谷 真生子 キャスター Maoko Kotani Newscaster 日本 Japan

2014年よりBSジャパン「日経プラス10」にメインキャスターとして出演中。2005年よりNPO法人 国際連合世界食糧計画WFP協会顧問。2013年より世界経済フォーラムIMC(International Media Council)、2014年より世界経済フォーラムGAC(Global Agenda Councils)のメンバー。2015年 に経済協力開発機構(OECD)年次総会にモデレーターとして登壇。

Chief News Anchor of BS (Broadcast Satellite) Japan "Nikkei plus 10" since 2014. She is an Advisor of Japan Association for the World Food Programme since 2005. She is a member of World Economic Forum IMC (International Media Council) from 2013 and World Economic Forum GAC (Global Agenda Councils) from 2014. She participated in the annual meeting of OECD as a moderator.



隈元 美穂子 国連ユニタール広島事務所 所長 **Mihoko Kumamoto** Head, UNITAR Hiroshima Office 日本 Japan

コロンビア大学開発経済修士号取得。国連開発計画にてニューヨーク本部他、ベトナム、サモア、インドネシア事務所などで勤務。2014年より現職。アフガニスタン、イラク、南スーダン等の国々を対象に女性のリーダーシップを含む研修を実施。

Head of the United Nations Institute for Training and Research (UNITAR) Hiroshima Office, which helps countries around the world, particularly fragile states such as Afghanistan, Iraq, and South Sudan, to develop capacities necessary for inclusive sustainable development, including women's leadership. She has worked for UNDP in NY, Vietnam, Samoa, and Indonesia. She holds a Master's Degree from Colombia University.



黒田 玲子 東京理科大学 教授/東京大学 名誉教授

Reiko Kuroda Professor of Tokyo University of Science / Professor Emeritus of the University of Tokyo 日本 Japan

東京大学で理学修士、理学博士号取得。ロンドン大学キングスカレッジで博士研究員、リサーチフェロー、名誉講師を務める。東京大学教養学部化学教室助教授、大学院総合文化研究科教授。定年 退職後、東京理科大学教授。

Received Ph.D. and M.Sc from the University of Tokyo in Science. Postdoctoral Research Associate, then Research Fellow, Honorary Lecturer at King's College London. Associate Professor, then full Professor at the University of Tokyo. She moved to Tokyo University of Science after retirement from the University of Tokyo.



マーニー・レヴィーン インスタグラム 最高執行責任者

Marne Levine Instagram Chief Operating Officer (COO)

アメリカ USA

広告事業や公共政策、人事を含むビジネス業務の統括を行い、インスタグラムの規模拡大に貢献。 現職以前はフェイスブックにてグローバル公共政策部門のVPを務めた他、オバマ政権下で国家経済会議の首席補佐官、大統領の経済政策企画官としても活躍。

Responsible for helping to scale the company's operations globally and oversees Instagram's business operations including monetization, policy and human resources. Prior to Instagram, she was VP of Global Public Policy at Facebook and also served as a member of the Agency Review Team for the Department of Treasury and as an advisor to President-elect Obama's economic team.



アンジュ・マルホトラ UNICEF(国連児童基金) ジェンダー主席アドバイザー

Anju Malhotra Principal Adviser, Gender and Development, UNICEF アメリカ USA

2012年からUNICEFにおいて、ジェンダーと開発の主席アドバイザーとして、政策、プログラム、調査を率いる。それ以前は、国際女性研究センター(ICRW)でリサーチ、イノベーション、インパクト担当の部長を務めた。ミシガン大学で博士号(人口統計学、社会学)取得。

As the Principal Adviser, Gender and Development, she is leading gender equality, including policy, programmes, and research at UNICEF since 2012. Prior to joining UNICEF, she was Vice President, Research, Innovation, and Impact at the International Center for Research on Women (ICRW). Received Ph.D. in Demography and Sociology from the University of Michigan.



マーラ・マリナキ 欧州対外活動庁 ジェンダー首席アドバイザー

Mara Marinaki EU/EEAS Principal Advisor on Gender and on UNSCR 1325 on Women, Peace and Security ギリシャ Greece

2015年9月、モゲリーニEU上級代表により、欧州対外活動庁初のジェンダー・平和・安全保障に関する安保理決議1325号の履行や、ジェンダーに関するその他事項に関する首席アドバイザーに任命された。

Appointed in September 2015 by the EU HRVP Ms. F. Mogherini as the first-ever EU/European External Action Service (EEAS) Principal Advisor on Gender, and on the implementation on UNSCR 1325 on Women, Peace and Security, and all other gender-related matters.



キャシー 松井 ゴールドマン・サックス証券株式会社 副会長 / チーフ日本株ストラテジスト /

グローバル・マクロ調査部アジア部門統括

Kathy Matsui Vice Chair at Goldman Sachs Japan Co., Ltd. / Chief Japan equity strategist / Co-head

of Asia Macro Research

アメリカ USA

ウィメノミクスのテーマにて、2007年にウォールストリートジャーナルの「10 Women to Watch in Asia」の一人に選ばれた。現在、アジア女子大学支援財団理事会、米日カウンシル理事会、ハワイ自然保護協会理事会のメンバー。ハーバード大学卒業、ジョンズ・ホプキンズ大学院卒業。

In 2007, The Wall Street Journal named her one of "10 Women to Watch in Asia" for her work in Womenomics. She is a board member of the Asian University for Women Support Foundation, Chair of the Board of Councilors (Japan) of the US-Japan Council, a trustee of The Nature Conservancy of Hawaii. She earned an A.B. from Harvard University and an M.A. from Johns Hopkins University.



目黑 依子 上智大学 名誉教授

Yoriko Meguro Professor Emeritus of Sophia University, Tokyo

日本 Japan

ケイス・ウエスタン・リザーヴ大学大学院で博士号(社会学)取得、東京大学大学院で修士号(社会学)取得。ジェンダー研究創成期より、その研究・教育に携わる。1994・95年の国連総会日本政府代表代理、1998年~2010年の国連女性の地位委員会日本代表。

Received Ph.D. from Case Western Reserve University and M.A. from University of Tokyo, both in Sociology. Continued research and teaching sociology of gender since its initial stage. Alternate representative of Japanese government to the UN General Assembly in 1994/95 and representative to UN Commission on the Status of Women in 1998-2010.





テウォドロス・メレッセ 国際家族計画 (IPPF) 事務局長

Tewodros Melesse Director General, International Planned Parenthood Federation エチオピア Ethiopia

1984年に全米家族計画連盟に勤務し始めてから25年に亘り、家族計画及びリプロダクティブ・ヘルス分野で経験を積み重ねた。IPPFアフリカ地域事務局長を経て、2011年9月よりIPPF事務局長として、透明性と展望を持った指導力を発揮している。

Took up the post in September 2011. An economist who studied at the Catholic University in Louvain, Belgium, with over 25 years' experience in family planning and reproductive health, starting in 1984 as a programme officer with FPIA. He subsequently joined IPPF Africa Regional Office and assumed its directorship in 2002. He brings to the role a profound belief in leadership founded on transparency and vision.



宮嶋 麻由 集まれ理系女子! 実行委員会 創設者 / 九州大学工学部学生 Mayu Miyajima Founder, 『Bring it in, STEM girls! Executive Committee』 / Student of Kyushu

University Faculty of Engineering

日本 Japan

理系女子学生のための全国組織「集まれ理系女子!実行委員会」の仕掛人。全国から100人近い理系女子学生・社会人を集めたイベントを開催するなど、マイノリティな理工学系女子学生1人ひとりが輝くために幅広く活動中。

Based on the experiences of offering the opportunity for STEM-major female students to think about their better career choice, she is acting to empower STEM-major female students by organizing events for them to inspire.



三宅 宏実 リオオリンピック 重量挙げ銅メダリスト

Hiromi Miyake Rio Olympic weight lifting bronze medalist

日本 Japan

女子48kg級および53kg級の日本記録保持者。ロンドンオリンピック48kg級銀メダリスト、リオデジャネイロオリンピック48kg級銅メダリスト。所属するいちご株式会社ウエイトリフティング部では選手兼任コーチを務める。

Holds national records in the women's 48kg and 53kg categories. She won the silver medal in the 48kg category at London Olympics and the bronze medal at Rio Olympics. She weightlifts as well as coaches at the weightlifting club of Ichigo Company that she affiliates with.



水野 弘道 年金積立金管理運用独立行政法人 (GPIF) 理事兼 CIO (最高投資責任者)

Hiromichi Mizuno Executive Managing Director and CIO (Chief Investment Officer), Government Pension Investment Fund (GPIF)

日本 Japan

コラーキャピタルのパートナーを経て現職。内閣官房健康医療戦略参与、内閣官房官民ファンドの活躍推進に関する閣僚連絡幹事会有識者委員、国連責任投資原則(UN-PRI)アセットオーナー・アドバイザリー・コミッティメンバー、ミルケン・インスティテュート・グローバル・キャピタル・マーケッツ・コンファレンスの共同議長。

Prior to joining GPIF, he was a partner of Coller Capital. He is also an executive adviser to Japanese Cabinet on healthcare and medical growth strategy, a member of Japanese Government Strategic Funds Integrated Advisory Committee, a co-chair of the Milken Institute's Global Capital Markets Advisory Council, a member of UN-PRI Asset Owner Advisory Committee.



プムズィレ・ムランボ=ヌクカ 国連事務次長兼 UN Women 事務局長

Phumzile Mlambo-Ngcuka UN Under-Secretary-General and Executive Director of UN Women 南アフリカ South Africa

2013年8月以来、国連事務次長及びUN Women事務局長を務める。それ以前の2005から2008年には、南アフリカにおいて副大統領を務めた他、複数の閣僚ポストを歴任。人権・平等・社会正義の重要性を唱え、教師としてキャリアを開始し、世界YMCAのコーディネーターとして国際的経験を積む。南アの学校の質の向上のために取り組む「Umlambo」財団創設者。

UN Under-Secretary-General and Executive Director of UN Women since August 2013, served as Deputy President of South Africa from 2005-2008, before which she held Ministerial positions and was a Member of Parliament. Focusing on human rights, equality and social justice, she began as a teacher, gaining international experience at the World YWCA. She founded the non-profit Umlambo Foundation, which contributes to the national effort of improving the quality of education in South Africa' schools.



エリーズ・モワゾン FORCE FEMES 代表

Elise Moison Director of FORCE FEMMES

フランス France

ブリュッセルで欧州経済学の修士号を取得後、2007年よりFORCE FEMMESの代表を務め、ワークショップ、コーチング、トレーニングやネットワーキング等を通じて、失業している高齢女性の就職支援を行う。また、企業等と協力して、高齢女性の雇用問題に関する固定観念の改善に貢献。

After receiving a Master degree in European economics in Brussels, she became Force Femmes' Director in 2007. Force Femmes is dedicated to help senior unemployed women in their job search, by providing them with individual and collective support, such as workshops, coaching, training, and networking. A unique NGO of its kind, Force Femmes contributes to change the mind-set on seniors employment matter, in cooperation with institutions and companies.



森 まさこ 参議院議員 / 元女性活力・子育て支援担当大臣

Masako Mori Member of the House of Councillors / Former Minister in charge of Support for Women's Empowerment and Child-Rearing

日本 Japan

1988年に東北大学法学部卒業、2005年金融庁総務企画局課長補佐、2006年金融庁検査局金融証券検査官を経て、2012年に第2次安倍内閣で女性活力・子育て支援担当大臣、内閣府特命担当大臣。

Graduated from Tohoku University in 1988. She became Deputy Director, Planning and Coordination Bureau, Finance Service Agency in 2005, and became Inspector, Inspection Bureau, Finance Service Agency in 2006. She was appointed to the Minister in charge of Support for Women's Empowerment and Child-Rearing in 2012.



室伏 きみ子 お茶の水女子大学 学長

Kimiko Murofushi President, Ochanomizu University

日本 Japan

1970年お茶の水女子大学理学部生物学科卒。1976年東京大学大学院医学系研究科博士課程修了。 医学博士。お茶の水女子大学教授、学部長、理事・副学長を経て、2015年4月より現職。2013年 フランス教育功労章シュヴァリエ叙勲。

Received Ph.D. from The University of Tokyo in 1976 and M.S. from Ochanomizu University in 1970. From 1996 she was Professor, Dean, Trustee at Ochanomizu University. In 1999 and 2005 she was Visiting Professor at Université Louis Pasteur, and given "Chevalier dans l'Ordre des Palmes Académiques" in France. From April 2015, she is the president at Ochanomizu University.





仲條 亮子 グーグル合同会社 執行役員 アジア太平洋地域 Partner Plex 代表 **Akiko Nakajo** Director, Regional Head of APAC Partner Plex, Google Japan G.K. 日本 Japan

メディア・IT業界でデジタル変革に携わる。ブルームバーグ在日副代表等を経て、2013年グーグル入社。早稲田大学政経学部卒業。シカゴ大学MBA。ハーバード・ビジネススクールAMPを修了。キリン株式会社社外取締役。二児の母。

Before joining Google, she worked for Bloomberg Television K.K. in Japan and Bloomberg L.P. She also serves for Kirin Company Limited as a Director of the Board (outside). She has a BA from Waseda University, an MBA from The University of Chicago, and completed the Advanced Management Program at Harvard Business School. She is a proud mother of two young boys.



成澤 廣修 文京区長 **Hironobu Narisawa** Bunkyo City Mayor 日本 Japan

文京区議を4期務めた後、2007年4月に区長に初当選(現在3期目)。2010年4月、地方自治体首長初の育児休暇を2週間取得し、話題となった。現在、東京都の男女平等参画審議会や子供・子育て会議などの委員、WAW!2016アドバイザーを務める。

Elected as the Bunkyo City Mayor in April 2007 (now in the third period) after serving as an assembly member for the fourth period. In April 2010, he, as the first mayor, has taken a parental leave for two weeks, which gained media attention. He is a member of several gender equity related committees such as Tokyo Children and Child-rearing Committee, and advisor to WAW!2016.



成田 真由美 アテネパラリンピック 水泳金メダリスト **Mayumi Narita** Athens Paralympic swimming gold medalist 日本 Japan

アトランタ、シドニー、アテネ、北京と夏季パラリンピックに出場(水泳)。20個のメダル獲得(金15、銀 3、銅 2)。一度現役を退くが、今年リオ大会で日本新記録・アジア新記録を出す。公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会理事。

Competed at Summer Paralympics in Atlanta, Sydney, Athena and Beijing (Swimming). She has won 20 medals (15 gold, 3 silver, 2 bronze). After retiring once, she competed in the Rio Paralympics this year and set the national and Asian record. She is one of the Executive Board Members of The Tokyo Organising Committee of the Olympic and Paralympic Games.



アイリーン・ナタビダッド 世界女性サミット 会長 **Irene Natividad** President, Global Summit of Women アメリカ USA

女性のビジネスや経済などのリーダーシップを促す年次国際会合である「世界女性サミット」の会長及び女性の取締役会などへの参加を促進する国際女性取締役会の会長を務めている。過去には、より多くの女性の公職選任の推進を目的とする全米女性政治連盟の会長を務めた。

Currently President of the Global Summit of Women, an annual international gathering of women leaders on business/economic issues, and Chair of Corporate Women Directors International, which promotes the increased corporate participation of women on corporate. Formerly, she served as Chair of the National Women's Political Caucus, a political group dedicated to electing more women to public office.



二宮 くみ子 味の素 理事 **Kumiko Ninomiya** Corporate Fellow, Ajinomoto 日本 Japan

広島大学で博士号(農学)取得、上智大学で修士号(理工学専攻)取得。味の素㈱理事、NPO法 人うま味インフォメーションセンター理事としてうま味のグローバル普及活動に従事。世界各国 で、研究者、シェフ、栄養士に向けた講演、執筆活動をしている。

Received her master's degree of science and technology from Sophia University and Ph.D. of food science from Hiroshima University. She is dedicated to spreading accurate information concerning the umami taste worldwide serving as corporate fellow of Ajinomoto and director of Umami Information Center. She gives lectures at conferences, culinary institute around the world and also published scientific paper and articles on umami.



新居 日南恵 manma 代表 / 慶應義塾大学生(法学部政治学科) Hinae Niori Head of manma, Political Science Student of Keio University 日本 Japan

2014年に"いまの女子大生の手で安心して母になれる社会をつくる"をコンセプトに掲げ、任意団体「manma」を設立。2015年 1 月より、学生が子育て家庭の日常生活に 1 日同行し、生き方のロールモデルに出会う体験プログラム「家族留学」を開始。

Co-founder and the leader of "manma", an organization with a concept, "building a community where motherhood is assured". Since the beginning of 2015, manma started a "Family Internship" program where students spend a day with a family, to observe and learn about what it is like to be a mother and raise a family.



西村 篤子 特命全権大使 女性・人権人道担当

Atsuko Nishimura Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary for Women, Human Rights and Humanitarian Affairs

日本 Japan

外務省入省後、総合外交政策局兵器関連物資等不拡散室長、中近東アフリカ局アフリカ第一課長を歴任。国際連合日本政府代表部公使、在ベルギー大使館公使等を経て、2014年からは駐ルクセンブルク特命全権大使を務めた。2016年7月より現職。

She has served as Director of Non-Proliferation Division and First African Affairs Division. She has also served oversee as Minister at the Permanent Mission of Japan to the United Nations and the Embassy of Japan in Belgium, as well as Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary to the Grand Duchy of Luxembourg. She assumed the current position in July 2016.







野口 元郎 国際刑事裁判所被害者信託基金 理事長

Motoo Noguchi Chair of the Board of Directors, The Trust Fund for Victims (TFV), International Criminal Court

日本 Japan

1985年検事任官。国連アジア極東犯罪防止研修所(UNAFEI)教官、法務総合研究所国際協力部長などを経て、2012年から最高検察庁検事。2006~12年、カンボジア特別法廷国際判事。2012年から被害者信託基金(TFV)理事長。スリランカの平和構築にかかる助言も行っている。

Japanese prosecutor since 1985 and is now with Supreme Public Prosecutors Office. He has been pursuing international rule of law in numerous capacities such as UN international judge to Khmer Rouge Trials in Cambodia (2006-12), Chair of the Trust Fund for Victims (TFV) Board (2012-), adviser to Sri Lankan Government for seeking accountability of war crimes during civil war (2015-).



大宮 英明 三菱重工業株式会社 取締役会長

Hideaki Omiya Chairman of the Board, Mitsubishi Heavy Industries, Ltd.

日本 Japan

1969年東京大学工学部航空学科卒業、三菱重工業入社。航空機の開発に長く携わる。経団連副会長として女性活躍アクションプランを取りまとめ、「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」の行動宣言策定に携わるなど、女性の活躍推進に積極的に取り組む。

Obtained a Bachelor's Degree from the University of Tokyo's Faculty of Engineering, followed by a Master's Degree in Aeronautics from Princeton. He worked in aircraft development for over 30 years. In June 2016, he received the Prime Minister's Commendation for his efforts to form a gender-equal society, promoting women's participation in the workforce through management and engagement with businesses.



大崎 麻子 関西学院大学 客員教授

Asako Osaki Visiting Professor, Kwansei Gakuin University

日本 Japan

コロンビア大学で国際関係修士号取得。UNDPでジェンダー平等と女性のエンパワメントの推進 に従事。現在はNGOや政府機関等と国内外のジェンダー問題に取り組む。

Received M.A., International Affairs, Columbia University. After serving the UNDP to promote gender equality and women's empowerment, she now works in Japan along with NGOs and governmental agencies to address gender issues both domestically and globally.



大崎 一磨 G8& G20 ユースサミット日本代表、上智大学国際教養学部国際教養学科4年生

Kazuma Osaki President at G8 & G20 Youth Summits Japan / Senior Student of Sophia University, Faculty of Liberal Arts

アメリカ USA

G8& G20ユースサミットに参加する若者の教育と育成に関心を有し、また、日本における若者の政治参画に資する活動を行っている。

Interested in the education and training of G8 and G20 Youth Summit attendees, as well as in activities which contribute to the political engagement and inclusion of youths in Japan.



太田 彩子 一般社団法人 営業部女子課の会 代表理事 **Ayako Ohta** Leader/Founder of Association of "Sales Department Girls Section" 日本 Japan

内閣府特命担当大臣表彰「平成28年度女性のチャレンジ賞」受賞。「WAW!2016」アドバイザー。 子育てをしながら㈱リクルートを経て現職。2009年より営業女子応援コミュニティ『営業部女子課』 を主宰し、全国3,100人以上の営業女子登録、27都道府県にて展開するまで成長させた。

Received Women's Challenge Grand Prize 2016 by Minister of State for Gender Equality. She is one of the advisors of WAW!2016. While working at Recruit Holding, she raised a child. She currently manages "Association of Sales Department Girls Section" to support women in Sales Department. The Association has more than 3,100 registered members and is active in 27 prefectures in Japan.



ババトゥンデ・オショティメイン 国連人口基金(UNFPA) 事務局長 **Babatunde Osotimehin** Executive Director of the United Nations Population Fund (UNFPA)
ナイジェリア Nigeria

医師、公衆衛生専門家。2011年 1 月 1 日に 4 代目のUNFPA事務局長(USGレベル) に着任。ナイジェリア国家エイズ機構事務局長(2007年~2008年)及びナイジェリア保健大臣(2008年~2010年)を経て現職。

A physician and public health expert. He became the fourth Executive Director of UNFPA on January 1, 2011. Before this appointment, he was Nigeria's Minister of Health and Director-General of Nigeria's National Agency of the Control of AIDS.



Photo by Tomoya Uehara

尾崎 マリサ(スプツニ子!) 現代美術家 / マサチューセッツ工科大学メディアラボ 助教 **Marisa Ozaki (Sputniko!)** Artist/Assistant Professor of MIT Media Lab 日本 Japan

テクノロジーによって変化していく人間の在り方や社会を反映させた作品を制作。主な展覧会に、「第3回瀬戸内国際芸術祭」(ベネッセアートサイト常設作品2016)など。2013年マサチューセッツ工科大学 (MIT)メディアラボ助教に就任しDesign Fiction研究室を創設。

Sputniko! creates videos, music, photographs and performance art works exploring how emerging technologies impact people and society. Her recent major works include a permanent pavilion in Benesse's art site for the third Setouchi Art Triennial in 2016. She is an assistant professor at the MIT Media Lab since 2013 where she founded the Design Fiction Group.



ライモ・ペルシネン 国会議員 (社民党)

Raimo Pärssinen Member of Parliament (Social Democratic Party)

スウェーデン Sweden

フィンランド出身。金属加工職人から、金属産業労働組合における貿易組合代表を経て、1998年から国会議員(社民党)。2014年から国会労働市場委員会の委員長を務め、労働や職場環境問題に関心を有している。

Born in Finland. Worked as a Metal Worker, and Trade Union Representative, Metal Workers' Union. Member of Parliament since 1998. Chair of the Committee on the Labour Market since 2014. He is interested in questions about the conditions of working life and the work.





エリザベス・ラスムーソン 国連 WFP 事務局次長

Elisabeth Rasmusson Assistant Executive Director of the World Food Programme

ノルウェー Norway

国連WFPにおいて、各国政府、NGO、関連国連機関、民間部門との連携等を統括。ノルウェー難 民評議会事務局長やウガンダでの国連人道調整官等、人道支援分野で幅広い経験を有する。オス ロ大学で政治科学・国際公法・社会文化人類学の学位を取得。

Her main role is to oversee WFP's partnership activities with governments, NGOs, the Rome-based UN agencies and the private sector. She has a wide-ranging career in humanitarian affairs, including Secretary General of the Norwegian Refugee Council and the UN Humanitarian Coordinator in Uganda. She received degrees in political science, public international law and social anthropology from the University of Oslo.



バンカー・ロイ ベアフット・カレッジ創立者

Bunker Roy Founder and Director, Barefoot College

インド India

ドゥーン高校、聖ステファンカレッジ卒。1970年結婚。1972年ベアフット・カレッジ創立。マハトマ・ガンディー信奉者。ベアフット・モデルの太陽光発電を80カ国以上の途上国に展開。2011年に行ったTED Talk講演は350万人が視聴。タイム誌(2010年4月)の世界で最も影響力がある100人に選ばれた。

Educated at Doon School (1956-1962) and St Stephens College (1962-1967). Married to Aruna (nee Jayaram) in June 1970. He started Barefoot College in 1972. Follower of Mahatma Gandhi. Presence of Solar Barefoot Model in over 80 Least Developed Countries. TED talk in October 2011 in Edinburgh had 3.5 million viewers. He is one of the 100 most influential people in the world (TIME Magazine, April 2010).



榊原 定征 経団連 会長/東レ 相談役最高顧問

Sadayuki Sakakibara Chairman, Keidanren / Chief Senior Advisor, Chief Senior Counselor, Toray Industries, Inc.

日本 Japan

1967年名古屋大学大学院工学研究科応用化学専攻修士課程修了、東レ入社。2002年社長、2010年会長、2015年6月より相談役最高顧問。経団連では、2014年6月に会長に就任。経済財政諮問会議議員をはじめ、日本の経済界の代表として幅広く活躍。

Completed a Master's Degree in Applied Chemistry at Nagoya University and joined Toray Industries in 1967. He was named as President in 2002 and became Chairman of the Board in 2010. He has been Chief Senior Advisor and Chief Senior Counselor since June 2015. In Keidanren, he has been Chairman since June 2014. He is a leading figure in the Japanese business community serving in a number of important posts, including member of the Council on Economic and Fiscal Policy.



オヨーン・サンジャースレン ゾリグ基金 会長 / グローバル・ウォーター・パートナーシップ 会長 / 元外務大臣

Oyun Sanjaasuren Chair of Zorig Foundation / Chair of Global Water Partnership / Former Minister of Foreign Affairs モンゴル Mongolia

ケンブリッジ大学にて博士号(地球科学)を取得。1998年に初めてモンゴル国家大会議員に選出され、その後、2007年から2008年まで外務大臣、2012年から2014年まで自然環境・グリーン開発大臣を務めた。モンゴル特別オリンピック委員会委員長として、障がいを持つ子どものために積極的に活動している。

Received a PhD degree in Earth Sciences from Cambridge University, UK. She was first elected as a Member of the Parliament of Mongolia in 1998. She served as Minister of Foreign Affairs during 2007-2008 and Minister of Environment and Green Development during 2012-2014. She also contributes actively to the cause of children with disabilities as the Chair of Special Olympics Committee of Mongolia.



佐々木 かをり 株式会社ユニカルインターナショナル 代表取締役社長 / 株式会社イー・ウーマン 代表取締役社長

Kaori Sasaki Founder & CEO, UNICUL International, Inc. / Founder & CEO, ewoman, Inc. 日本 Japan

日本最大級1000人を越える女性会議「国際女性ビジネス会議」を1996年より毎夏開催。上場企業の社外取締役、監査役、財団理事、経営委員他、複数の政府審議会委員等を務める。ダイバーシティをテーマに国内外での講演多数。CBS60ミニッツ元アンカー。

Producer and Chair of the largest working women's Conference in Japan, just celebrated its 21st year. She also established two companies, UNICUL International and ewoman. She serves on several corporate boards and on councils of various Ministries including Cabinet Office. She gives speeches over 1500 times in Japan and overseas including OECD and APEC. Former anchor of the "CBS 60 Minutes" in Japan.



マリエット・スクールマン NATO 女性・平和・安全保障担当特別代表

Marriët Schuurman NATO Secretary General's Special Representative for Women, Peace and Security オランダ Netherlands

アムステルダム大学で修士号(通訳学)取得。2014年10月までは、在マケドニア旧ユーゴスラビア共和国オランダ大使を務めた。NATOの女性・平和・安全保障課題に関するハイレベルの責任者として、国連安保理決議第1325号及び関連決議の履行に係るNATO/EAPCの政策・行動計画の推進に取り組む。

Received master's degree in Translation Studies from the University of Amsterdam. The Dutch Ambassador to the Former Yugoslavia Republic of Macedonia until October 2014. Is the high-level focal point on all aspects of NATO's contributions to the Women, Peace and Security agenda, with the aim to take forward the implementation of the NATO/EAPC policy and Action Plan on the UNSCR 1325 and related Resolutions.



ジェニファー・セマクラ・ムシシ カンパラ市事務局長

Jennifer Semakula Musisi Executive Director, Kampala Capital City Authority (KCCA) ウガンダ Uganda

ユナイテッド・グラデュエート・カレッジ・アンド・セミナリー・インターナショナル・オブ・テネシーで博士号取得。2011年、ウガンダ大統領からカンパラ市事務局の初代事務局長に任命されて以来、地方政府から法人格への市行政の移行を牽引。世界各地で多数の講演会等を行う。

Received Ph.D. from United Graduate College and Seminary International of Tennessee. In 2011, she was appointed by H. E. the President of the Republic of Uganda as the first Exceutive Director of KCCA and has been the head of the transformation of the City Administration from a Local Government to a Corporate Entity under the Central Government. She gives speeches at conferences around the world.



ロージィ・セナナヤケ 首相府副官房長

Rosy Senanayake Deputy Chief of Staff, Prime Minister's Office

スリランカ Sri Lanka

政治家・活動家。前女性・児童大臣。女性の人権やリプロダクティブ・ヘルス問題に取り組んでいる。国連人口基金親善大使、駐マレーシア大使を経て、2010年に国会議員に当選。元ミセス・ワールド

Politician and activist. Former Minister of Women and Child Affairs. She has been promoting women's rights and reproductive health care. After serving as a UNFPA Goodwill Ambassador and High Commissioner to Malaysia, she was elected as a member of Parliament in 2010. A former Mrs. World.





アンジャン・シャキャ 国際問題センター 主宰 **Anjan Shakya** Chairperson of International Concern Center (ICC) ネパール Nepal

国際問題センターを主宰し、国際問題、ジェンダー、女性のエンパワーメント等に関する研修プログラムの実施や書籍を出版。ネパール商工会議所の理事及び女性起業家育成委員会委員長を務める。ネパール国内で数多くの賞を受賞。

Currently Chairperson of International Concern Center Nepal (ICC). She operates training programs on foreign affairs, gender, women empowerment and published books. She was former Deputy Executive Director of Institute of Foreign Affairs. She is Executive Member and Chairperson of Women Entrepreneurs Development Committee of Nepal Chamber of Commerce (NCC). She was honored by many national level awards.



城谷 尚子 公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン 国内プログラムチームリーダー **Naoko Shiroya** Youth Advocate for Change Team Leader, Plan International Japan 日本 Japan

2008年から現職。子どもの権利が守られ、女の子が差別されない公正な社会を実現するため、日本の市民社会に対する啓発活動、日本政府への政策提言、ユースとの協働を行う。教育協力NGOネットワーク副代表、広島大学教育開発国際協力研究センター客員研究員。

Joined Plan International in 2008, one of the world's largest child-centered NGO which strives for a just world that advances children's rights and equality for girls, and is in charge of advocacy and youth engagement. She serves on Vice-president of Japan's NGO Network for Education and is a Visiting Research Fellow at Center for the Study of International Cooperation in Education, Hiroshima University.



シエン・ソクチャン バッタンバン 女性障害者協会 理事 / 車椅子バスケット連盟 コーチ

Sieng Sokchan Director, Battambang Women with Disabilities Forum / Coach, Battanbang Women Wheelchair Basketball team

カンボジア Cambodia

カンボジア内戦時代にあった幼少期、銃弾を受け下半身麻痺となる。自ら縫製技術を学び、障害をもつ女性の自立支援事業に従事。現在、バッタンバン女性障害者協会理事・車椅子バスケット 連盟のコーチとして、障害を持つ女性の自立支援活動を行う。

During the internal conflict in Cambodia, she got paralysed from the waist down by the accident that a stray bullet hit in the spine. She has been engaged in vocational training programs for disabled women while utilizing own skills of sewing and tailoring. She also manages projects, advocates and presents the voice of women with disability for improving their quality of life.



スン・スレイトーイ 赤十字国際委員会 障害者インクルージョン・オフィサー **Sun Sreytouch** Disability Inclusion Officer, International Committee of the Red Cross カンボジア Cambodia

カンボジア・パニャラケ大学卒業。卒業後、障害者の自立支援事業に従事。現在、赤十字国際委員会(ICRC)障害者インクルージョン・オフィサーとして、障害者のための教育、雇用機会、職業訓練、スポーツ文化参加促進に係る事業を担当し、カンボジアの障害者の社会参加促進に貢献。

Received a Bachelor degree in Finance and Banking from Pannasastra University of Cambodia. Since her graduation, she has administrated and managed projects in the field of social welfare. Currently, as Disability Inclusion Officer of International Committee of the Red Cross (ICRC), she manages the Physical Rehabilitation Program Social Inclusion Project which is focusing on education, employment opportunity, vocational training and cultural participation.



須永 珠代 株式会社トラストバンク 代表取締役 **Tamayo Sunaga** President, TRUSTBANK, Inc. 日本 Japan

2012年 4 月トラストバンク設立。同年 9 月、ふるさと納税総合サイト『ふるさとチョイス』を立ち上げ、ふるさと納税を通じた地域支援のため、「お礼の品」の開発提案から資金調達支援等を行う。2015年12月、日経WOMAN「ウーマン・オブ・ザ・イヤー2016」大賞受賞。

Established TRUSTBANK in April 2012, and launched a portal site "Furusato Choice (hometown tax)" in September 2012. She makes proposals of items in return for tax and organizes fundraising events to support rural communities through the hometown tax. In December 2015, she received the Grand Prize of Woman of the Year 2016 Award by Nikkei Woman.



鈴木 英敬 三重県知事 **Eikei Suzuki** Governor of Mie Prefecture 日本 Japan

2011年4月に三重県知事選に当選し、36歳の全国最年少知事となる。現在2期目。2児の父でもあり、自らも育児休業を取得し、「イクボス宣言」を行うなど、少子化対策や女性の活躍推進に精力的に取り組んでいる。

Elected as the Governor of Mie Prefecture in 2011, and was the youngest governor in Japan at that time. He is now serving his second term. As the father of two children, he made the Declaration of Ikubosu and took childcare leave himself. He is simultaneously working to tackle the problem of the falling birthrate and to support the further success of women.



竹下 奈都子 特定非営利活動法人 BOND プロジェクト 広報担当 Natsuko Takeshita Communication officer, BOND project 日本 Japan

2009年に、生きづらさを抱える10代・20代の女子を支援するBONDプロジェクト設立。虐待、家出、 貧困など様々な困難を一人で抱えている女子に寄り添い、相談を受ける。「動く相談窓口」として、 全国各地を飛び回る。TV、新聞等で多数活動を紹介される。

In 2009, she established the NPO, "BOND project", which supports girls and young women who have difficulties such as abuse, running away from home, and poverty. She supports and visits them all over Japan as "Moving consulting service", and is featured on a TV show and newspapers.



玉城 絵美 H2L 株式会社 共同創業者 / 国立研究開発法人 科学技術振興機構(JST) さきがけ 研究員 / 早稲田大学人間科学学術院 助教

Emi Tamaki Co-Founder, H2L Inc. / PREST Researcher, Japan Science and Technology Agency (JST) / Assistant Professor of Faculty of Human Sciences, Waseda University

日本 Japan

コンピュータから手を制御する装置PossessedHandを発表しTIME誌が選ぶ50の発明に選出される。H2L, Incを起業し、バーチャルリアリティコントローラ UnlimitedHandをTechCrunch SFにて発表。2016年WIRED Audi Innovation Award 選出。

Published her research on "PossessedHand" that controls human hands from computers, which was selected by TIME Magazine as one of the 50 Best Inventions. She started H2L,Inc and published her research on a virtual reality Controller, "UnlimitedHand" at Tech Crunch SF. She was selected for 2016 WIRED Audi Innovation Award.





戸谷 知尋 公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン ユース・グループ G-SChooL 副代表 / 慶應義塾大学生

Chihiro Toya Vice President of Youth Group G-SChooL, Plan International Japan / student of Keio University

日本 Japan

大学2年生の夏から、プラン・インターナショナル・ジャパンユース・グループ「G-SChooL」の副代表を務め、特に開発途上国の女子教育の必要性について理解を深める。現在は、より多くの学生にジェンダー平等の必要性を伝えるためワークショップの開催を行う。

Became the Vice President of Plan International Japan Youth Group "G-SChooL" when she was a second year university student and learned about the necessity of girls' education, especially in developing countries. Currently, she organizes events catered towards Japanese youths that advocate the importance of gender equality and women's empowerment.



辻 沙絵 リオパラリンピック 陸上銅メダリスト **Sae Tsuji** Rio Paralympic track and field bronze medalist 日本 Japan

先天性前腕欠損(右腕)でありながらハンドボール選手として活躍。高校総体にも出場し、スポーツ推薦にて日本体育大学に入学。2015年に障害者陸上競技へ転向し、2015年世界選手権で6位に入賞、リオデジャネイロパラリンピック陸上400mでは銅メダルを獲得。

Played handball with congenital defect of right forearm and competed at the National Sports Festival at high school. She is a Nippon Sports Science University student admission on recommendation. She switched to track and field and came in sixth position at the 2015 Championships. She won the bronze medal in the women's 400-meter at Rio Paralympics.



津坂 美樹 ボストンコンサルティング・グループ (BCG) シニア・パートナー & マネージング・ディレクター

Miki Tsusaka Senior Partner and Managing Director of The Boston consulting Group 日本 Japan

ハーバード大学政治学部及び東アジア研究学部卒(Magna Cum Laude)、同大学経営学修士 (MBA)。ボストンコンサルティング・グループ (BCG) ニューヨークで20年間の勤務を経てBCG 東京へ移籍。BCGグローバルマーケティングのリーダー及び取締役会の一員を担う。

A Senior Partner and Managing Director of The Boston Consulting Group and currently a member of the Executive Committee and Chief Marketing Officer. Graduate of Harvard College and Harvard Business School and recently named one of the industry's top 25 consultants in the America's by Consulting Magazine.



内永 ゆか子 特定非営利活動法人ジャパン・ウィメンズ・イノベイティブ・ネットワーク (J-Win) 理事長 / 株式会社グローバリゼーションリサーチインスチチュート (GRI) 代表取締役社長 / 一般社団法人ジャパンダイバーシティネットワーク (JDN) 代表理事

Yukako Uchinaga Board Chair, J-Win (Japan Women's Innovative Network); President &CEO / Globalization Research Institute (GRI) Co., Ltd; / Board Chair, JDN (Japan Diversity Network Association)

日本 Japan

日本IBMで初の女性取締役。ベネッセホールディングス副社長、ベルリッツコーポレーション会長兼社長兼CEO及び名誉会長を務める(2008~2013)。米国WITI(ウィメン・イン・テクノロジー・インターナショナル)殿堂入り。2013年男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰受賞。

The first female member of the board of directors at IBM Japan. She was Chairman of the Board, CEO & President of Berlitz Corp. & Director and Executive Vice President of Benesse Holdings, Inc. (2008-2013). She was inducted into the Women in Technology International (WITI) Hall of Fame, and was awarded the 'Prime Minister's Commendation for Efforts Toward the Formation of a Gender-Equal Society' in 2013.



上田 奈生子 経済協力開発機構 (OECD) 開発センター (DEV) 次長 Naoko Ueda Deputy Director of the Development Centre, OECD 日本 Japan

ジェンダー及び東南アジアをはじめ幅広い開発課題をカバーしつつ、マネジメント面においても開発センター所長を補佐。政策研究大学院大学国際開発修士課程、ペンシルバニア大学政治学修士課程修了。前職は国際民間航空機関(ICAO)常駐代表。その他、OECD開発援助委員会等を担当。

Supports the Director of the Development Centre in establishing the strategic directions and implementing the programme of work, covering a wide range of development issues, including gender equality and Southeast Asia. She holds a Masters of International Development Studies from IDS/GRIPS and a M.A. in International Politics from the University of Pennsylvania. She had previously worked as the Permanent Representative of Japan to the ICAO, as Deputy Director and Unit Chief for the OECD Development Assistance Committee.



メラニー・バービア ジョージタウン大学女性・平和・安全保障研究所所長 **Melanne Verveer** Executive Director, the Georgetown Institute for Women, Peace and Security アメリカ USA

初代の米国際女性問題担当大使として、女性の政治的、経済的及び社会的な前進に関する外交政策と各種活動の調整に携わった。2000年から2008年までバイタルボイス・グローバルパートナーシップ会長兼共同CEOを務め、クリントン政権で大統領補佐官及び大統領夫人首席補佐官を歴任。

Most recently served as the first U.S. Ambassador for Global Women's Issues, coordinating foreign policy issues and activities relating to the political, economic and social advancement of women. From 2000-2008, she served as the Chair and Co-CEO of Vital Voices Global Partnership, and during the Clinton Administration, she served as Assistant to the President and Chief of Staff to the First Lady.



渡辺 美代子 科学技術振興機構 副理事

Miyoko O. Watanabe Deputy Executive Director, Japan Science and Technology Agency (JST) 日本 Japan

1986年ダルハウジー大学ポストドク。2006年東芝研究開発センター技術管理部門長、2009年同イノベーション推進本部経営変革統括責任者。2014年より科学技術振興機構執行役(現・副理事)、科学コミュニケーションセンター長とダイバーシティ推進室長を併任。

Serves at Japan Science and Technology Agency (JST) as Deputy Executive Director, Director-General of Center for Science Communication and also Director of Office for Diversity and Inclusion. After a long experience of research in semiconductor physics, she served as Executive Quality Leader at Innovation Division in the headquarters at Toshiba.



ビビアン・ウィリス・マッツィッチ 欧州委員会 ジェンダー課長

Viviane Willis-Mazzichi Head of Sector Gender – Directorate General Research & Innovation, European Commission

フランス France

フランス農業研究所において農業修士号、ブリュッセル自由大学において歴史・バイオメディカルサイエンス哲学に関するディプロマを取得。現在、リサーチ・イノベーション分野におけるジェンダー平等の戦略を担っている欧州委員会ジェンダー担当課長。"SHE Figures 2015", "Gender Equality Policies in public research", "Structural change in research institutions", "Gendered Innovation"等の同課出版物のコーディネート役を務めた。

Holds a Master in Agriculture from French Institute for Agronomy, and a Post graduate Diploma in History and Philosophy of Biomedical Sciences from Free University of Brussels. Head of "Gender" Sector at the European Commission, which develops the strategy on Gender Equality in Research & Innovation. She coordinated the publication of SHE Figures 2015, Gender Equality Policies in public research, Structural change in research institutions, and Gendered Innovations.





山本 朱音 上智大学法学部4年生

Akane Yamamoto Student of Sophia University, Faculty of Law

日本 Japan

2013年カリタス女子高等学校卒業。女子校で14年過ごしたことが基盤となり、大学では三浦まりゼミで女性のエンパワーメントを学ぶ。ジェンダー社会学の研究ため 1 年間テネシー工科大学に留学中に、BPWインターンとして第60回国連女性の地位委員会に参加。

Graduated from Caritas girls' high school in 2013. 14 years of experience in girls' school made her what she is now. Specializes in women's empowerment under Professor Mari Miura at Sophia University. Served at BPW Japan as an intern in the sixtieth session of the Commission on the Status of Women in March 2016 while she studies gender sociology in Tennessee Technological University for a year.



山中 燁子 世界津波の日 特別大使

Akiko Yamanaka Special Ambassador of Japan for the World Tsunami Awareness Day

日本 Japan

外務大臣政務官時代に「平和構築人材育成事業」の設立に貢献。ハーバード大学及びオックスフォード大学上席研究員、ケンブリッジ大学客員教授、国際連合大学客員教授(平和構築・安全保障)、 北海道大学大学院客員教授(国際戦略交渉論)。

Launched "The Human Resources Development Program in Asia for Peacebuilding" as Parliamentary Vice-Minister for Foreign Affairs. Senior Researcher at Harvard University and the University of Oxford, Visiting Professor at the University of Cambridge, the United Nation University, Graduate School of Hokkaido University with expertise in International Peacebuilding, Preventive State Theory, International Negotiation and Strategic Studies.



依田 みなみ 電気通信大学大学院情報システム学研究科修士2年生

Minami Yoda Second year Graduate Student of Information Systems, the University of Electro-Communications

日本 Japan

8歳からコンピュータに関心を持ち始め、多くのWEBアプリケーションを開発。大学院ではソフトウェア工学を専攻、WEBアプリケーションのバグ検知に取り組む。文部科学省のスカラーシップ「トビタテ!」第2期生。

Started having an interest in Information Technology and Computer since she was eight years old. She has developed many web applications. Her research is about finding bugs in web applications. She is a "Tobitate! Student" (Scholarship of Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology of Japan).



弓削 昭子 法政大学 教授

Akiko Yuge Professor of Hosei University

日本 Japan

米国コロンビア大学教養学部卒。ニューヨーク大学大学院で開発経済学修士号取得。国連開発計画(UNDP)インドネシア事務所常駐副代表、ブータン事務所常駐代表、UNDP管理局長、駐日代表・総裁特別顧問等を務めた。2014年より現職。

Worked in United Nations Development Programme (UNDP) as: Assistant Secretary-General and Director, Bureau of Management; Director of UNDP Representation Office in Japan; and UN Resident Coordinator and UNDP Resident Representative in Bhutan. She received B.A. from Barnard College, Columbia University; M.A. in Development Economics from New York University. She has been in current position since 2014.



アヴリル・マクドナルド レディング大学 名誉教授 / 英国女性ビジネス評議会 委員

Averil MacDonald Professor Emeritus of University of Reading / Member of the Women's Business Council, United Kingdom

イギリス UK

科学振興や科学への若者の関心向上の取組が評価され、英国物理学会や王立協会等の多数の賞のほか、女性科学功績賞を受賞。2015年に科学で活躍する女性として大英帝国勲章を受勲。英国女性ビジネス評議会のメンバーとして、英国政府に科学分野での女子の参加やSTEM分野での女性のキャリア向上に関するアドバイスを行う。

Has received numerous awards for popularising science and attracting young people to science, including by the Institute of Physics, the Royal Society. She has also received the Woman of Outstanding Achievement in Science Award and was awarded OBE in the Queen's Birthday Honours 2015 for services to women in science. She is a member of the Women's Business Council, advising the UK Government on how to encourage girls into science and in advancing women's careers in the STEM fields.



シモーナ・セッテパネッラ 北海道大学 准教授

Simona Settepanella Associate Professor of Hokkaido University

イタリア Italy

ピサ大学で数学の博士号取得、テラモ大学でコンピューターサイエンスの博士号取得。純粋数学と経済学の数理モデルに関する研究を進めてきた。世界各国で講演し、STEM分野における女性の活躍を推進するための活動を展開している。

Received Ph.D in Mathematics at Pisa University and Ph.D in Computer Science at Teramo University. Her research is both, on pure mathematics and on mathematical model for economics. She gives speeches at conferences around the world and also acts as activist in promoting women in STEM.



メアリー・ウエールズ ウオータールー大学 教授

Mary A. Wells Professor of University of Waterloo

カナダ Canada

大学で機械工学・メカトロニクスの教鞭をとりつつ、オンタリオ州で毎年3,000名の女性がエンジニア分野に触れられる機会を提供し、理系女性の参画に貢献。カナダや世界のエンジニアネットワークでも取組が高く評価されている。

As a professor in the department of mechanical and mechatronics engineering, she has initiated programs to expose 3,000 women in Ontario annually to the engineering profession. She contributes to increase participation of women in engineering and is highly appreciated by engineer networks across Canada and around the world.



イリス・ヴィーツォレック 株式会社 IRIS 科学・技術経営研究所 ライブニッツ協会 日本代表 / GIGA 研究員

Iris Wieczorek Japan Representative Leibniz Association, IRIS Science Management Inc. /
Senior Researcher, GIGA German Institute of Global and Area Studies

ドイツ Germany

ドイツハンブルグ大学にて日本学・中国学・コンピューターサイエンス専攻、博士号取得。GIGA研究員やDFG日本代表部初代所長を経て、株式会社IRIS科学・技術経営研究所を設立し、代表取締役社長を務める。ライプニッツ協会日本代表、日本の様々な研究政策委員会メンバーとしても活躍。

Studied Japanese and Chinese Studies, as well as Computer Science in Germany. She retains a research position with the GIGA, has been the founding director of the Tokyo representative office of the German Research Foundation (DFG), and is the founder of the Tokyo-based consulting firm IRIS Science Management Inc. She is representing the Leibniz Association in Japan, and is member of various Japanese research policy committees.



(3) 事務局 / Secretariat for WAW! 2016



石兼 公博 外務省総合外交政策局長(WAW!2016 準備事務局事務局長)

Kimihiro Ishikane Deputy Vice-Minister for Foreign Policy (Secretary-General, Secretariat for

WAW! 2016)

日本 Japan

1981年 外務省入省

2014年 国際協力局長

2015年 アジア大洋州局長

2016年6月 総合外交政策局長

1981 Joined the Ministry of Foreign Affairs

2014 Director-General, International Cooperation Bureau

2015 Director-General, Asia and Oceanian Affairs Bureau

June 2016 Deputy Vice-Minister for Foreign Policy



水嶋 光一 外務省総合外交政策審議官

Koichi Mizushima Deputy Director-General, Foreign Policy Bureau, the Ministry of Foreign

Affairs, Japan

日本 Japan

1985年 外務省入省

2010年 在ジュネーブ国際機関日本政府代表部公使

2015年 大臣官房審議官(報道・広報・文化交流担当)(外務副報道官)

2016年2月 大臣官房審議官兼総合外交政策局

1985 Joined the Ministry of Foreign Affairs, Japan

2010 Minister, Permanent Mission of Japan to the UN and the International Organizations in Geneva 2015 Deputy Press Secretary, Deputy Director-General, Public Diplomacy Department, MOFA

February 2016 Deputy Director-General. Foreign Policy Bureau, MOFA



北鄉 恭子 外務省総合外交政策局女性参画推進室長

Kyoko Hokugo Director, Gender Mainstreaming Division, Foreign Policy Bureau, Ministry of

Foreign Affairs

日本 Japan

1995年 外務省入省

2010年 在ジュネーブ国際機関日本代表部 参事官

2013年 在ベルギー日本国大使館参事官

2016年6月 総合外交政策局女性参画推進室長

1995 Joined the Ministry of Foreign Affairs

2010 Counsellor, Permanent Mission of Japan to the UN and the International Organizations in Geneva

2013 Counsellor, Embassy of Japan in Belgium

June 2016 Director, Gender Mainstreaming Division, Foreign Policy Bureau

対外発信

Public Relations Efforts

国際女性会議 World Assembly for Women WAW!2016

今回3回目を迎えるにあたり、より多くの皆様にWAW!を知っていただくため、対外発信に力をいれています。初の試みとして、JR線の一部で動画広告(トレインチャンネル)を放映し、WAW!開催を広く周知しました。また、今年はFacebookやTwitterなどのSNSを活用し、著名人の方々とも連携しながら幅広くWAW!に関する情報を発信しています。さらに、グーグルの女性応援サイト「Women Will」を期間限定でWAW!2016特別バージョンにし、「女性が輝く社会」の実現に向けた皆様のご意見・アイデアを投稿できるようになっています。ぜひアクセスしてください。



On the occasion of WAW!2016, we are making a great effort to provide information so that people can learn more about WAW!. For the first time ever, we had video promotion play on JR trains. Also, we are sending out the information about WAW! through SNS (Facebook and Twitter) collaborating with prominent figures. Furthermore, "Women Will," Google's online site for encouraging women, exclusively features WAW!2016, where you can send us your comments and ideas on the site to realize a society where women shine.





#WAWJapan

f

Facebook: @shineweeks

y

Twitter: @WAW Japan

"Women Will": https://www.womenwill.com/japan/

WAW! 2016

World Assembly for Women

日本で、世界で女性が輝く社会を実現するため、WAW! は2014年に初めて開催されました。

WAW! は、女性を巡る様々な課題について経済から国際協力まで包括的に議論し、提言していくことが特徴です。政治、経済、社会の第一線で活躍する人々がテーブルを囲み、国や肩書にとらわれず自分の言葉で率直に議論する場です。

安倍政権では、女性の活躍推進に向けた様々な経済改革を打ち出すと共に、国際社会における女性のエンパワーメントの議論を主導してきました。

本年のテーマはWAW! for Action。女性活躍の是非について議論する段階は終わった、行動に移そう、とのメッセージです。これから2日間の議論を踏まえ導きだされる提言は、女性が輝く社会への歩みを大きく進めるものになるでしょう。

WAW! は世界に提言します。私たちの理想の社会を作るために。

WAW! はムーブメントです。皆で議論し、発信していきます。

WAW! はネットワークです。国や文化を超えてつながり、共に行動します。

WAW! 2016

World Assembly for Women

The World Assembly for Women (WAW!) was held for the first time in 2014 in Japan with an aim to realize a society where women shine in Japan and the world.

At WAW!, participants discuss various issues surrounding women from economy to international cooperation in a comprehensive manner and make proposals on them. WAW! serves as a forum to have the frontrunners in the political, economic and social fields exchange their views candidly in their own words notwithstanding their countries of origin and affiliations.

The Abe administration has implemented various economic reforms for promotion of the engagement of women and also has taken the lead in the discussion on the empowerment of women in international society.

This year, WAW! is themed as "WAW! for Action." This is to send a message that we are done discussing the need of women's engagement, and it is time to take actions. Proposals to be compiled based on discussions at WAW! will help us move forward significantly to achieve the society where women shine.

WAW! issues proposals to the world in order to create an ideal society.

WAW! is a movement. We will discuss and send out messages to the world.

WAW! is a network. We will act together and get connected beyond countries and culture.

主催:日本国政府



Host: The Government of Japan